神さまの怨結び
かみさまのえんむすび
10
守月史貴
KAMIZUKI SIKI
Champion RED Comics
RED

神さまの怨結び 10

❖かみさまのえんむすび

守月史貴

Champion
RED
Comics

くちなわ
蛇
■怨結びの呪いを授ける神。自身に眠っていたもう一つの神格、紅に神の座を追われるも、クビツリの協力により神に返り咲いた。最近、己の体に起きている変化とクビツリの変調に不安を抱いている。また叶のことを考えるクビツリに、もやっとした思いを抱いたりも……。
返事をせよ……。何故……声が届かぬ……。
クビツリ
■赤縄で首を吊って以来、呪いを望む少女を蛇へと導く役を負う。今も死んでいる状態で、とある事件で左腕を失った。不器用だけど優しい彼に救われる者もいて……。
紅
コウ
■一度は蛇により消滅されたかのように思われたが、僅かに残った呪いを用い神永たちに蛇の怨結びとは違う呪いをばら撒く。とある男を使役しているようだが……。

怨の縁に絡め取られた人間たち

櫻 美咲　さくら みさき

■同級生を呪いで消した過去を持つ刑事。怨結びを追う過程で、蛇やクビツリと親交を結ぶ。

乙梨 叶　おとなし きょう

■かつて蛇を殺そうとしたクビツリと両思いの少女。怨が刻まれたクビツリの左腕を所持する。

名無　ナナ

■呪いを使った安登まつりの死産となった子の魂が母体に宿り名無に。己の運命を覚悟している。

佐々　ささ

■櫻の部下。櫻に恋慕しているが、強い想い故、その心は重く、闇に沈んでいくこととなり……。

神永許斐　かみなが このみ

■メイが憧れる先輩。才色兼備の完璧少女。しかしその心奥に誰よりも昏い想いを抱えて……。

根津見鳴　ねずみ メイ

■女子校に通う純朴少女。憧れの先輩と親友の板挟みに悩んでおり、そこをつけ込まれ……。

もはや妾もこやつの運命も――

メイの親友、智を始め次々と女子生徒が心神喪失となる中、一つの悲劇の現場に偶然居合せたメイとクビツリ。その流れでメイは警察に……。そこへナイフを持った男が現れ、メイを連れさってしまう。

気づくとメイは、監禁されていた。そこに現れる神永。神永はある目的のため、メイを追い詰めたかったのだ。長く続く責めにメイが助けを求め声を上げる。その声に応え現れたクビツリは、メイを蛇の元へと導き、彼女は憔悴の中、蛇より怨結びを授かるのだった。

メイを連れ監禁場所に戻るクビツリ。だがそこにナイフを手にした佐々が!?

凶刃がクビツリを襲った瞬間、繋がりを断たれた蛇が叫んだ。そして……。

応えよ!!
クビツリー!!!

漏れ出し、広がる神永の闇。それはより深い怨を呼ぶ――!?

目次

初出/チャンピオンRED2020年6月号～11月号

第五十三節❖引縄批根（いんじょうへいこん）

――全く……

こんな縄が腹から……
出てくるなんてっ
マジもんの化物かこいつは……
よっと

僕が発見した時には
既に――……

おめでとう!!

おめでとう
僕!!

いやー
長かったなあ！

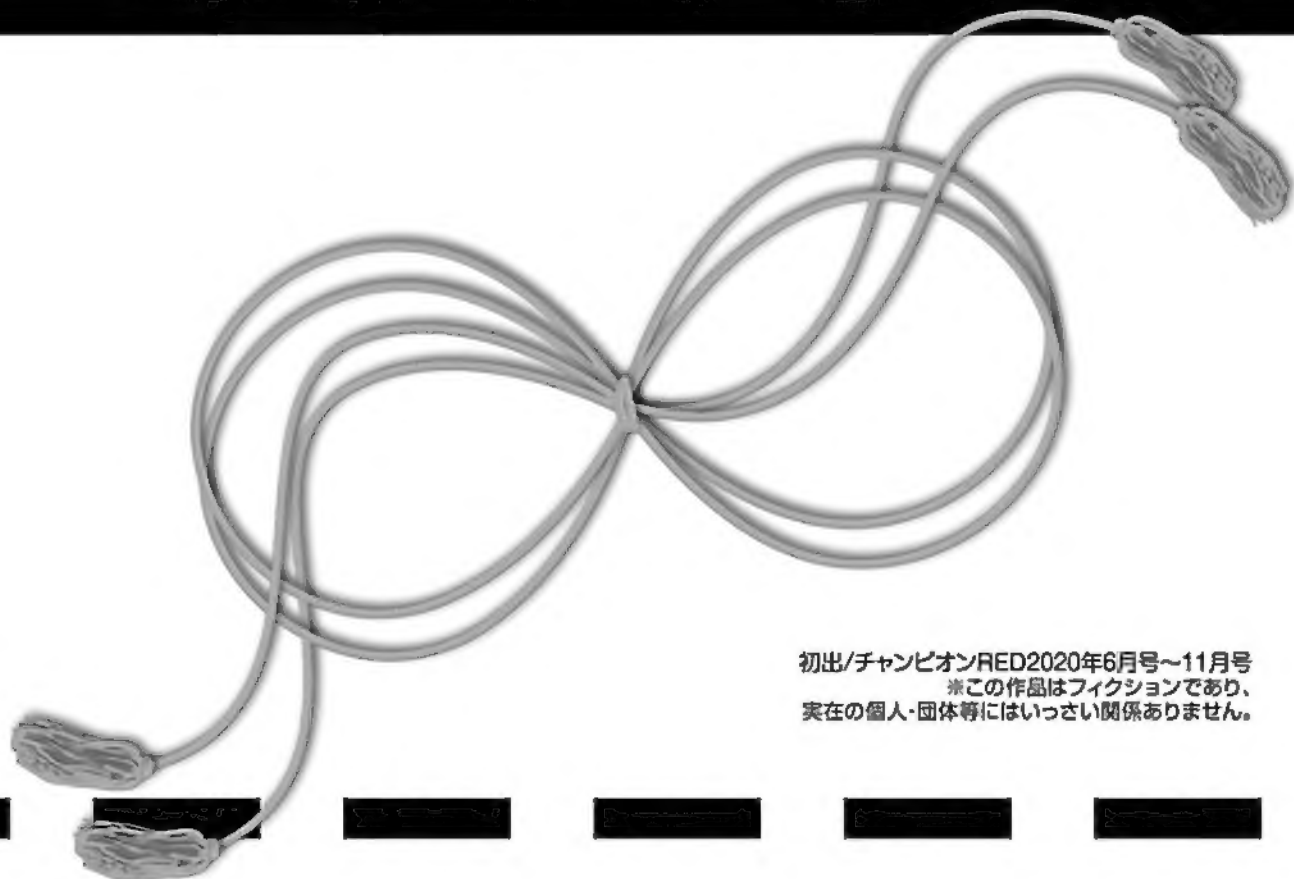
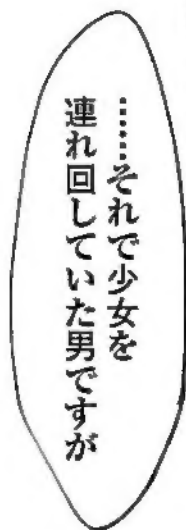
忘れも
しない……

縄男を
逃して以来の
屈辱の日々

終いには奴の
真似事までして
ついに！

ようやく
この僕が！

一人で!!

…一人ではなかろう？
……です
……人が勝利に浸っているのに水差さないでくれよ
そんで少し見ぬ間に随分肉が付いたじゃないか
それじゃもう『骨女』とは呼べないな
骨女では…ない
紅様と呼べ……
もっとも――

新たに受肉できたのは外道のお兄ちゃんのおかげなので

不敬も特別に赦しちゃうのですよ☆

たっくさん呪いを撒いてくれたので順調に力を獲得しつつあるのです

てててて

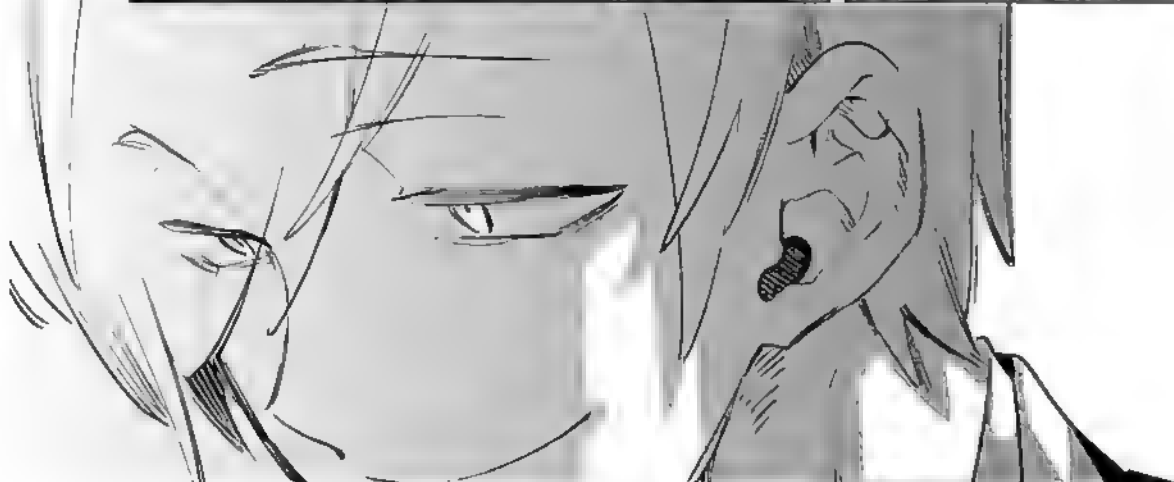
そしてなにより――

ようやくっ

スリスリスリ♥

赤縄が吾の元に帰ってきたのです!!

ともあれ
これまでは仕方無く
縄の燃えカスで
凌いできたものの……
これでもう
『不完全な呪い』は
おしまい
なのです
死体のお兄ちゃんの
ことは残念だけど――
これからは
外道の
お兄ちゃんと
頑張れば
いいのです☆
あっはっは
感謝してる相手に
外道呼ばわりは
ないんじゃないの!?
外道でなくて
なんなのだ
?
……です?
好いたおなごの
人生を歪めた
怨結び(えんむす)の
『代償』を――

永遠の責め苦を
終わらせぬために
吾と組み
散々手を汚した
主こそ——
外道と呼ぶに
ふさわしいぞ
——2年前
本日付けで
配属された
佐々です
……
うわー…

もともと1課に居た俺は突然の辞令で
少年事件8課
少年事件8課『怨結び捜査係』に配属されることになった
狭っ
人少なっ
来てくれて助かるよ
なにせ見ての通り人手不足でね
まあかけて
噂には聞いているかもしれないがウチは少々『特殊』な事件を扱っている
捜査内容などの詳しい話は──……
誰が見たって一目瞭然の窓際部署
出世の道は閉ざされた──
ただいま聞き込みから戻りましたー！
ああ櫻くん！
丁度よかった
──そう
絶望していたところに

天使が現れた
……可愛い──
……けど
ボソ
……中学生？
やべ思わず
声に出た
ゴ
はっはっは
言うねー君！
ゴ
ゴ
ゴ

……櫻美咲警部補です。
捜査は性質上デリケートな事件が多いので
おお……見た目に反して性格キツそ
でも
脳内ズキュン
おっぱいすげー!!!
デリカシーのない発言にはくれぐれも『気をつけて』ね？

BLACK
くぴ
……先輩
コーヒー飲む時 いつも しかめっ面 してますけど
ギョ!!
それ理由とか 聞いちゃっても 大丈夫なヤツですか?
!?
べつ
別に私 そんな顔 して……な…
ぺた
ぺた
……
あぁく……
……苦手なの コーヒー
けど私……初対面で 言われちゃうくらい 「子供っぽい」って自覚あるし
そんな自分が 嫌いだから
そっ
中学生?
……んなこと なくも ないか……
あー……

……だからね
わざと嫌いな自分に飲ませてる
なんてね
実は今ビールも練習中なの
先輩は
まるで背伸びして大人のフリをする子供みたいな時があって
守ってあげたいような
それでいて意地悪したくなるような
……飲み屋で年齢確認されるのも慣れっこですもんね
佐々くん？
不思議な魅力のある女性だと
——そう 思ってたのに

……仕方ないよね
私にしてあげられるのは
これしかないから…
でも先に言っておかなくちゃね
……私佐々くんのこと
嘘だ
あの先輩が
好きにはならない
好きでもない男と平気でする人だったなんで
――嘘だ
先輩がこんなビッチなわけない……
全部――縄男と怨結(えんむす)びのせいだ!!

〝もし怨結びしてなかったら〟
〝ケーサツ官にはならなかったと思う……〟

……それじゃ駄目だから

こんなことしてんだろうが

んんん？……でも外道のお兄ちゃん

その櫻とかいう女のせいで不能

ともかく

先輩が俺と出会わないなんて

許さない

僕はねぇ！
先輩にはこれからもずっと怨結びを追い続けて欲しいんだ！
クビツリが死んだのに続く怨結び
深まる謎!!
その黒幕が同僚とも知らずにずーっとね！
そんなの彼女が不幸じゃないかって？知ったことかボケ!!
そのために
お前みたいな化物と
手を組んだんだ

こやつも随分と仕上がってきたのお…です

肝心な時は役にたたず

こんなクソみたいな熱弁振るう時ばかり元気とは

つくづく捻くれた外道なのです

でも勃たないのをおなごのせいにする男はカッコ悪いのですよ☆

おいクソガキィ!

……それはそうと

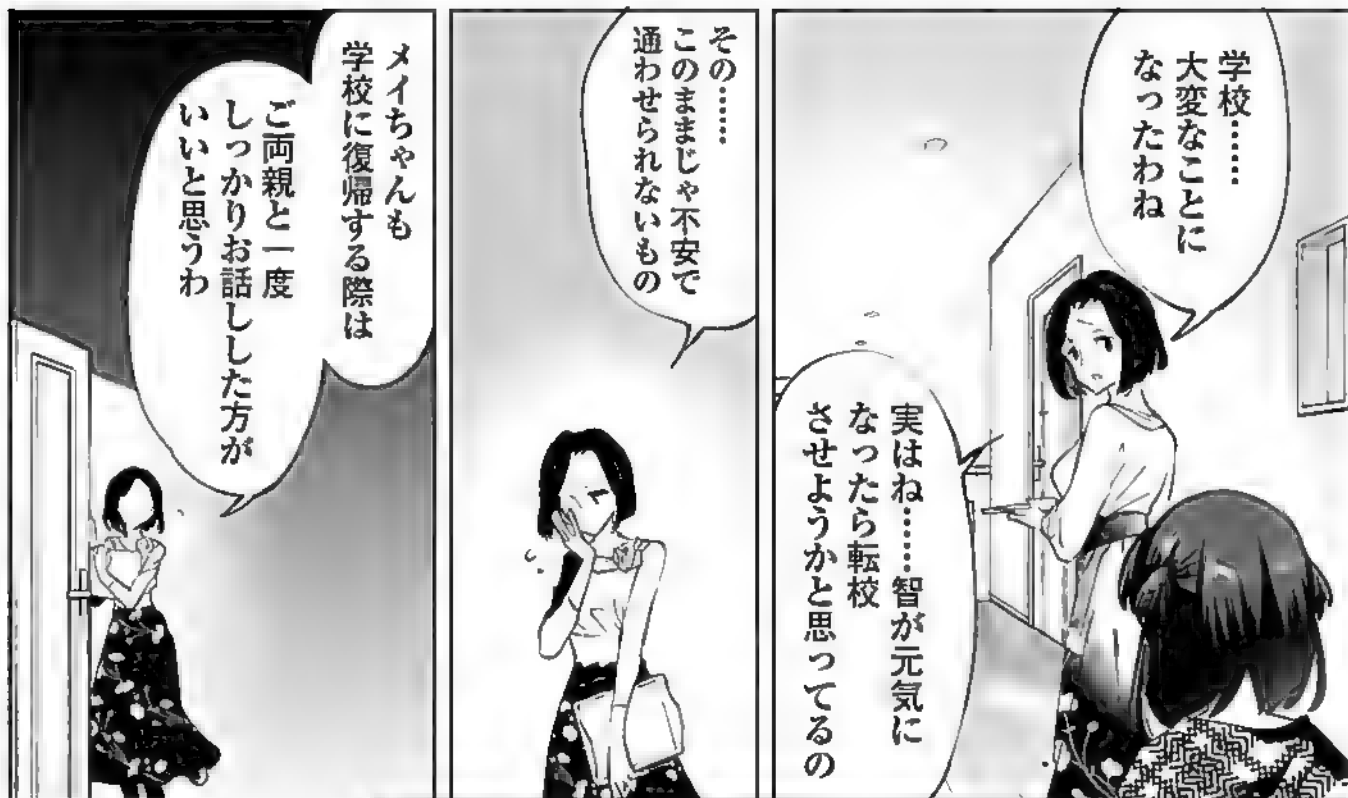
『あの娘』……

随分と変わった要求をしてきたものだ

とても正気とは思えぬが——

せいぜい満足のいく結末を
迎えられればよいがの…ですよ――
神さま
ありがとう
もうじき
私の夢も叶いそうだ……
――あれから
数日が経った

私が検査入院や取り調べを受けてる間
学校は大変な騒ぎになってた
コートの男が言ってた通り
クラスの三分の一にあたる八人が智と同じ状態になって
休校の明けた今
無事だった子たちは他のクラスに振り分けられて
うちのクラスは事実上無くなった……
いつもお見舞いありがとう
メイちゃん

学校……大変なことになったわね
実はね……智が元気になったら転校させようかと思ってるの
その……このままじゃ不安で通わせられないもの
メイちゃんも学校に復帰する際はご両親と一度しっかりお話しした方がいいと思うわ
パタン……
……
智……

……そだ
……世間で
うちの学校は
集団催眠だとか
パニックだとか
智もかわいく
髪結ったげるね！
オカルトブームの
再来だとか面白半分に
取り沙汰されてるけど
死者の出ている
栄野校の方が
大変みたい
いずれの犠牲者も
私が解放されて以降
ぱったりと
途絶えてる
きっと先輩たちは
なんらかの目的を
達成したんだ……

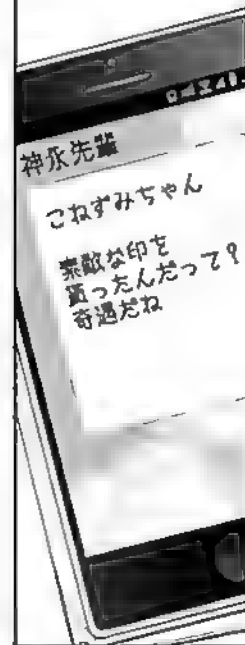
お前……
捜したぞ
今まで何して
たんだ馬鹿野郎
――!!
本気で心配
してくれてた……
あの人……
どうなった
んだろう
私と同じでニュースに
なってないってことは
生きてるの？
それとも――……
私のせいで
智だけじゃなく
たくさんの人が
……傷ついた
私が助けを
求めなかった
から
クラスの
友達が
私が助けを
求めたから
あの男の人が
どうして
私でなく
私の周囲
ばかりなのか
それ事体が何か……
先輩の目的
みたいな気がして
ピロロン

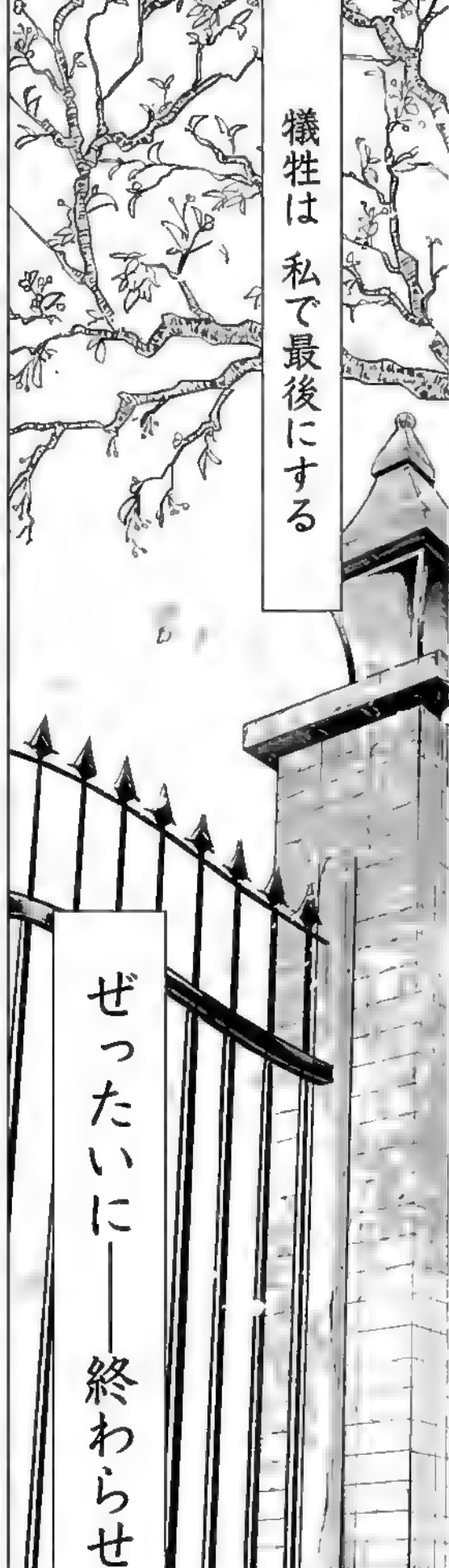
神永先輩
こねずみちゃん
素敵な印を
貰ったんだって？
奇遇だね

実は私もなんだ
見せ合いっこしようよ
いつもの音楽室で
待ってる
——だけど

スッ…

……できた！

……智
ふわ…

今度は私が先輩を止めるね
智が私のために
そうして
くれたように……
先輩の目的が
なんであれ

犠牲は 私で最後にする
ぜったいに――終わらせる
だいぶ減ったとはいえ
まだ取材の人が居る……
私の事件は
公になってない
休み中 私はずっと
田舎に帰ってたことに
なってるんだ って
私を保護した
刑事さんが
言ってた
そうでなかったら今頃
うちの前も大変なことに
なってたかも
……とにかく

約束の場所に向かうには校舎に入らないと
見つからないよう裏口に――……
……あ　あの
ビキーッ
こっ　ここの生徒さん……
ですか
……誰？
取材の人……じゃない
学生？
ドキ
ドキ
あの　あの　わたし前ここに通ってた……
じ　事件……知っていてもたっても……
あっ　あのぉここ　この子知りません…か

君なら逃げずに来ると思ってたよ

君は……とっても強い子だから

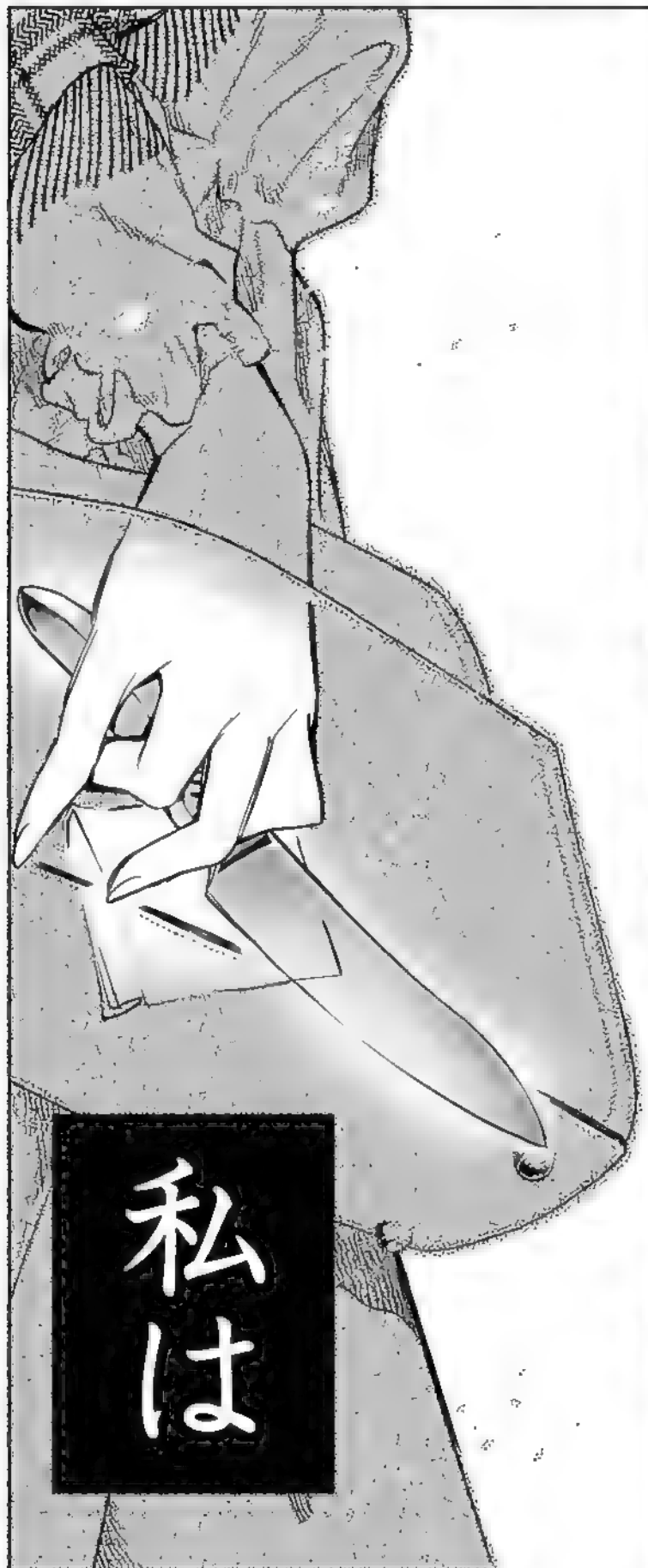
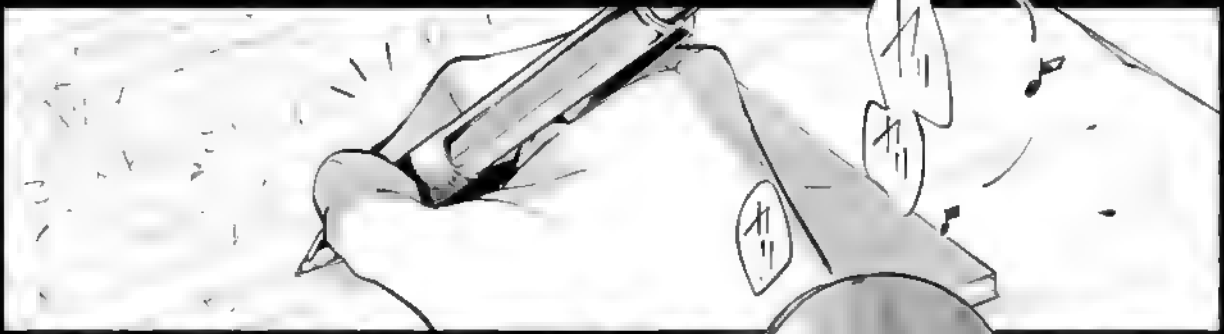
勘違いしないで……
私は――全て終わらせるために来たの
うんいいよ終わらせて。
私もこねずみちゃんに終わらせて欲しくて待ってたんだ!!
ただしそれは対等な呪いで私に勝てたらの話だけど
左手に「怨結び」貰ったんだねカワイイ♡
…先輩

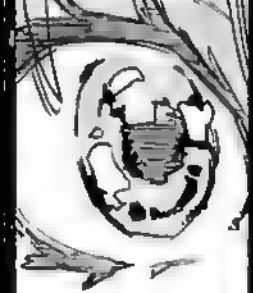
私の罪の全てを見てきた君が
その呪いでどんな裁きをくれるのか
確かめさせておくれよ……！

関係のない
女の子が先輩に
弄ばれてきた
先輩の
愉しみと
身勝手な
贖罪のために
だけど私は
皆と同じには
ならない
絶対に

そのためなら
私は

カリ
カリ
カリ
――歌……？
……きれいな声
こんな時間にいったい誰が……
第五十四節❖不意の決着
パタ
パタ
ガイ

第五十四節❖不意の決着

……お昼休みにこんな所へ何の用ですか？
神永先輩
見て分かんない？
ごはんだよ
私は教室や学食みたいな騒がしい場所が苦手でね
……騒がしいの苦手なのに声楽部入ったんですか……？
矛盾してますね
いやそれがさ！
部活動以外は人も居ないし静かだしいい穴場なんだ！
鍵が開いててラッキーだったよ～
あひと口食べる？
いりません
鍵は私が開けました
……それにここ飲食禁止なので……
その
……
うーん……

警戒されてるなぁ……
智が私との関係を喋ったかな？
……いや 知ってたら
もっと突っかかってくるか
ああ……
この子はどんな声で鳴くのかな？
フフフ
考えるだけで濡れちゃいそ……
……先輩って
色んな部活を転々としてるみたいですけど
何か目的？ でもあるんですか……？
──…調べたの？
…いえ 元々有名人なので
そんなには…
調べたんかい
…ただ2年の貴重な活動時間を
こんなマイナー部に使うだなんて
率直に言って怪しいな……と
えぇー…
そんなに怪しいかい…？
キズ付くなぁ…

じっ…
おお…
すっごい観察してくるな……この子
小動物みたいな顔して
こちらを見透かすような瞳――
そんで否定しないのね
こくり
……まあ その 私には関係ないので別に話さなくてもいいですけど…
キュ…
でも
学年は上でも声楽部としては『新入部員』なので
ルール・には・・・・・・・は…
従・っ・て・ください
あ

…いい

いいなあ…この子

すごくいい

あ あと……
この部屋

今から私の練習で
騒がしく
なっちゃうので

ご飯の続きは
他を当たって
ください……

どこか「あの子」に
似ているけれど——

疑り深くて慎重で

それでいて強い子だ

この子は——
他の子たちとは
少し違う匂いがする

……先輩？

単なる玩具にするのは惜しい

その代わり
君の練習……
見ててもいい？

時間をかけて
手に入れて——

きみのこと
もっと
知りたくなっちゃった…♡

最後に私の所業を知った時

その瞳はどんな色に染まるだろう？

〝私の罪の全てを見てきた君が〟
〝どんな裁きをくれるのか――……〟
裁きをくだすのは…
私じゃない
え？
もしもし警察ですか

私 百合苑女学院の2年B組 根津見 鳴です
そう 女子高生連続暴行事件と集団昏睡事件の
今その暴行教唆？の犯人が目の前にいます
は？
証拠なら動画データがあります
今すぐ学校にきてください
では
ちよちょっと！
ここまできてそれはないよ!!
なんのつもり!?こねずみちゃん!!
最初は警察に頼るのは違う とか考えたりもしたけど
考えが変わりました
だって
……どうして
君が…それを…

私は
先輩が
二年前の事件当時
付き合ってた
彼女じゃない
ず
ずっと……
気になって
……たの

今回の一連の事件報道を見て

二年前と同じ現場が出てきたために

いてもたってもいられず来てしまった——

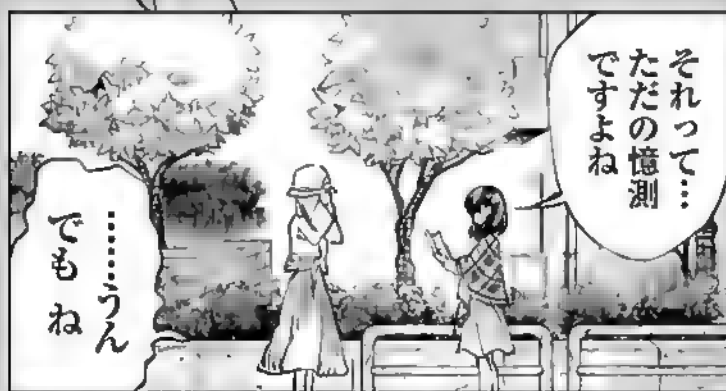
そう

『先輩の元彼女』は言った

私と一緒に居るときも……

むむ結ばれた時……も

私に気を遣って
幸せだよ って
嘘
ついて
くれてた…の
ほんとはいつも
物足りなさそうで……
寂しそう
だった のに
でもね
──あの
事件の時
私の意識が
薄れる中……
許斐ちゃん
心の底から
笑ってた……
わ私 ずっとあの子が
豹変しちゃった
裏切られちゃった って
ぐるぐる考えちゃって
……で でもね
最近になってね
彼女は普通の人と
ちょっと……だいぶ
…しあわせの定義が
違ったのかも って
思うように
なって…

幸せ……？
そう
自分にとっての幸せが
万人の幸せとは
限らない …でしょ？
あの子のそれは…
すごく特殊だったの
かなあ…って
でも
許斐ちゃんね…
普通の子なの
いけないことは
いけないいって
ちゃんと
分かってる
普通の子
そんな
普通の子 が……
ある日突然
己の『異常性』を
突きつけられた……
それって…
ただの憶測
ですよね
……うん
でも ね
こ この
許斐ちゃんの字…
見てると ね
分かっ
ちゃうの

字がね 泣いてるの
あの時はあんな 無邪気に 残酷に 笑ってたのに……

泣いてる姿しか 浮かばない の

だからね 本当は許斐ちゃん 誰よりも
自分自身に 怯えてたんじゃ ないか…って
なのに私 自分だけ… 逃げちゃって

……仮にその通り だとしても
そんなの
身勝手 すぎる……!!

あのね き…機会があれば 伝えて欲しいな
わわ 私が弱いばっかりに 向き合ってあげられなくて ごめんね って……

〝私は許斐ちゃんのこと 怒ってないよ って――〟
そしてこの手紙は……あの人がこの町を引っ越すまで
毎日のように届き続けたそうです
先輩
もしかして今もまだ……書いてるんですか？
手紙
そこまで後悔しておきながら……
裏で女の子を他人に乱暴させるなんて
どうして――
……れよ

いや
怒れよ!!!
怒るところだろ
そこは!!
どいつもこいつも
傷ついたって顔をして
私の前から消えるだけ…
誰も裁いて
くれないなら
私は
……あぁあ…っ
参ったなぁ……
それで？…君は
『私が最も嫌がる手段』を
的確に選んだわけだ
あの子の手紙まで
持ち出して……
流石だよ
こねずみちゃん……
……でもね

ッ!?

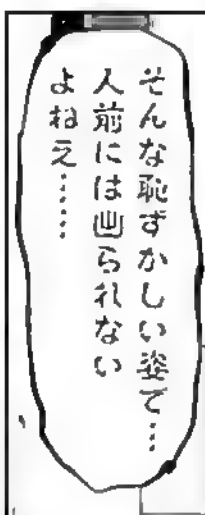
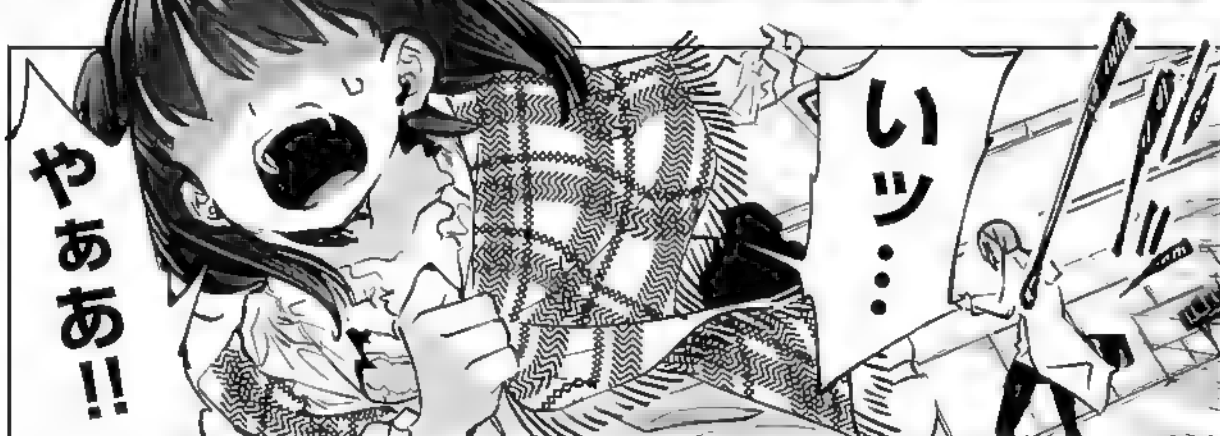
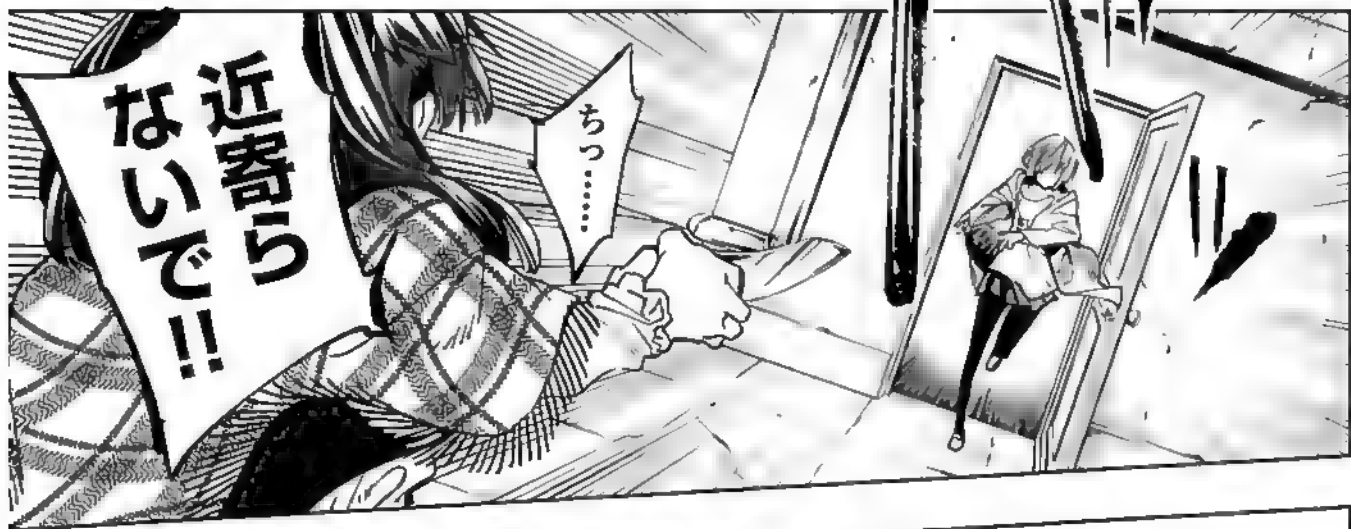
私は別に……

無理矢理やったっていいんだよ?

いッ…

やぁあ!!

ネズミ狩りの始まりだ
先輩は……ずっと救えなかった元カノに謝りたかったんじゃないの!?
ねえ…君は私が憎いから呪いを貰ったんだろう?
女の子たちを彼女の『代用品』にするために
同じように傷つけて……
だけどもう他ならぬ彼女本人の言葉で許されたでしょ?
だったら呪い合おうよぉ…♡
あの事件はこれで終わったはずなのに!!

……袋小路だね
ゲームオーバーだ
ちっ……
近寄らないで!!

警察が上がって来るまで――
これで時間を稼ぐ……!!
ここなら大声を出せば遠くまで響くし
上からも下からも目に留まりやすい
刃物なんて……むやみに出したら危ないよ?
可哀想に手が震えてるじゃな……
動かないで!!
どっ…どうしても怨結びがしたいっていうのなら
その前に…先輩を殺すから!!

さっ殺意なんかじゃない…

あくまでも防衛手段として！

流れ…そう流れで殺しちゃうの！

そ…そうすれば先輩はただの『被害者』にすぎない…

あなたの願いは叶わない!!

どう？残念!?

警察に捕まって裁かれるのは私一人——

!?
わあ
あ
そんな!!
ずるいよ君ばっかり
——!!!
なんでだよ!
裁かれるべきは私なのに!!
頼むよ!!
土下座でもなんでもするからぁあああ
ビクッ
い……
いったいなんなんですか
そんなの私求めてないし!!
ていうか何これ!?
……
傷つくことができる奴はいい……

私だってあの時

傷つき無様に泣き叫びながら
彼女にだけは手を出すな とか
懇願できていたのなら

こんなことには
ならなかった……

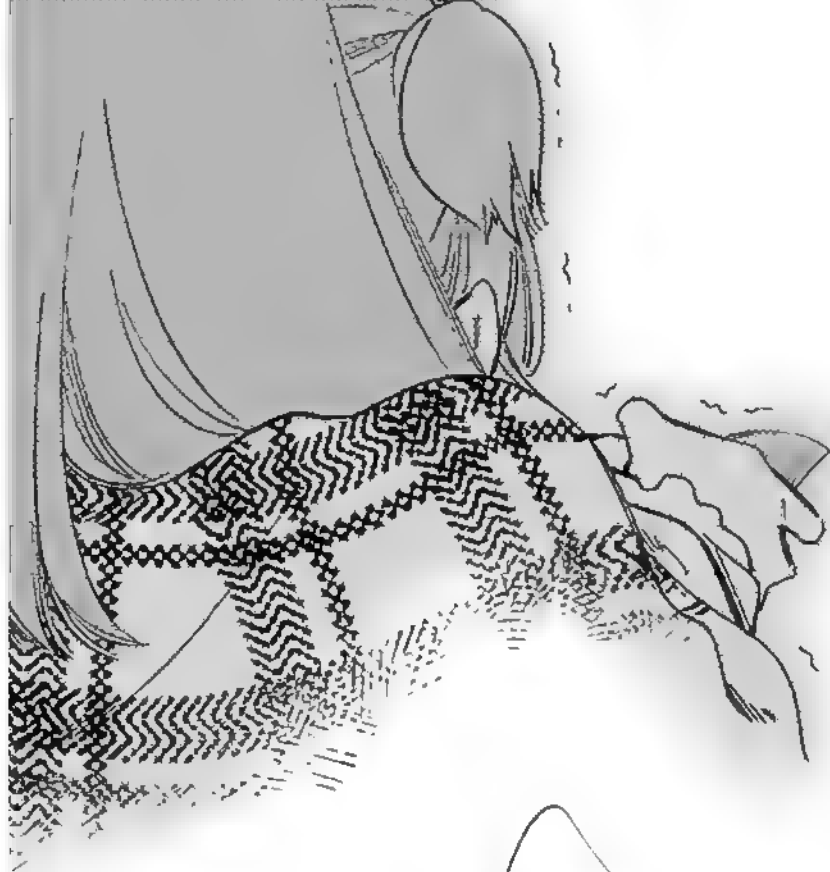
でも
私は駄目
なんだよ…

何度他人に
大事な人を壊され
踏みにじられても

悦ぶばかりで
私の心は少しも
痛まないんだ…♡

……ねえ？

もう……
分かって
るんだろ？

私は
この数日
君を『育てて』
きたんだ
私と同じ地獄を
疑似体験し
大切なものを
壊し壊された……
それでもなお
私の前に立っている
君だからこそ
この絶対公平な
『怨結び』で
裁いてほしいんだ
呪いが怖い？
大丈夫!!
君の怨みが
本物ならば。
私なんかの呪いに
負けるはずが
ないんだから!!

……
…
せ　先輩……
自首　してください……
そして罪を…償って……！
本当に……
その気がないんだ……
それじゃ…仕方ない……
…
……
……そっか…

なんて言うとでも思った？
!!
君もあくまで私とは向き合わず……
『正しく』あろうとするわけだ
友達があんなむごい目に遭わされて…
その黒幕を前に錯乱するでも憎むでもなく
凄い…凄いよ
大誤算だ
あ…
か
ああ…そっか

君は――
強すぎたんだ

せ
ん
ぱ…

頼みの綱…だった
君が
ズ…
裁いてくれ…な…いなら
ズ
ズ…
仕方ない…

…のままっ……
時間切れで
え
え？
見ず知らず
のッ
大人
たちに……
裁かれる
ぐらいなら──
っや
やめ…

……完敗だ
君の勝ちだよ
こねずみちゃん……

第五十五節❖涙の行方

ねえ

よっこらせ

私
カッコイイ?
惚れちゃった?

なっなっ
なに突然っ

勝手に
となり
座らんで
ください。

いや初対面から
ずーっと警戒
されてるからさあ

私はこんなに
好きなのに

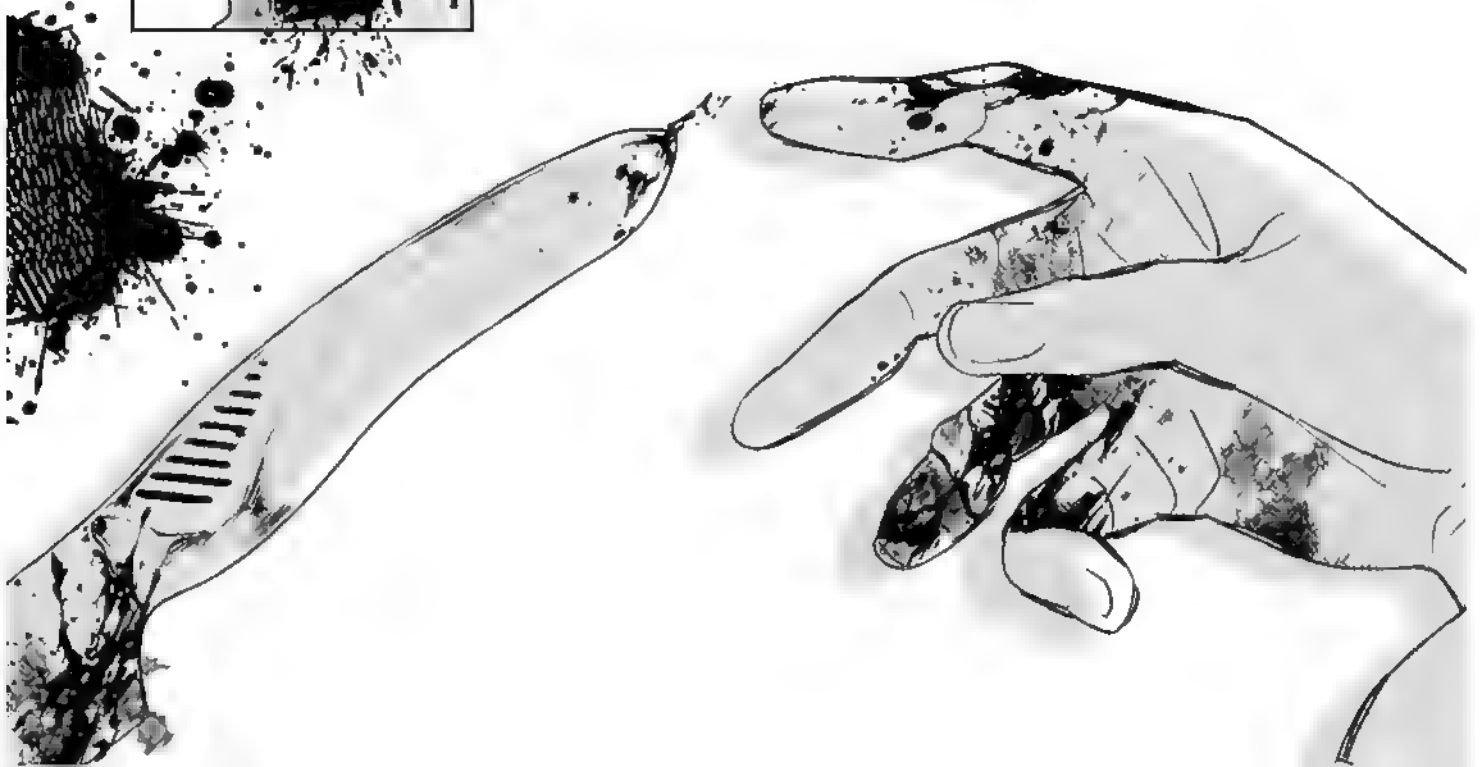
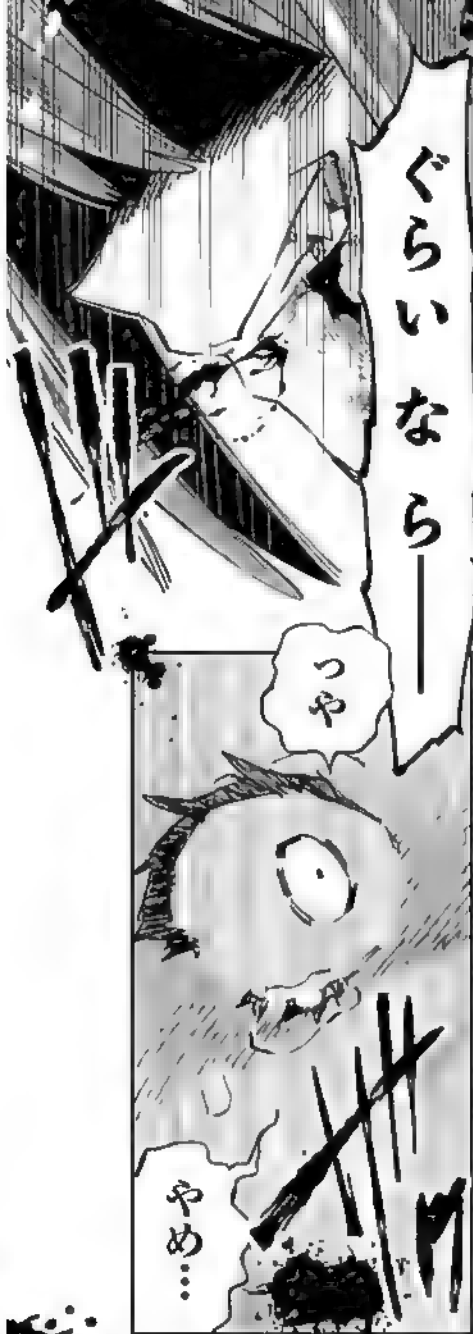
…ねえ?

すっ…

神永てめー

体育祭で下級生
口説いてんじゃ
ねーよっ

あんだけ走れるくせに
陸上部さっさと
抜けやがって…

I♥陸上

だってこんな
どこをとっても
完璧超人みたいな人が
私なんかを
好き
だなん……て
でも……
……せ
先輩——
わ
私……も!

ポロッ
ポツ
——私も
神永先輩のことが——……
せんぱ……
先輩ッ
先輩!!
何してんですか!
なんでこんなこと……っ
ごぽっ
こ
こんな殺人……
……君が被るべき罪…じゃ
ないだろ……

〝どうしても怨結(えんむす)びするっていうなら〟

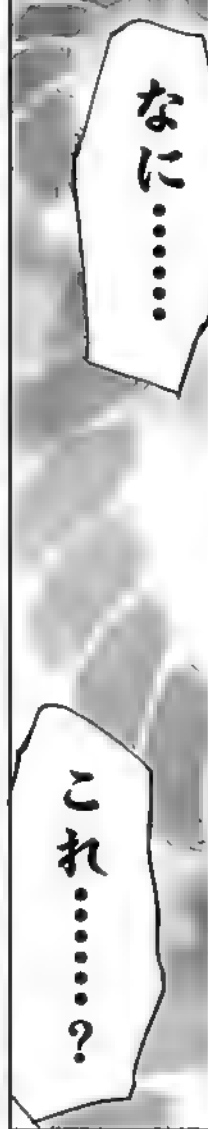
〝その前に先輩を殺すから――〟

なに……

これ……？

ああ それ……？

別に…大したことじゃない……

そんな……ことよりさ

つめ…
死ぬ…？
先輩が
こんな──
訳も分からず
唐突に？
たい……
私……全てを
終わらせるつもりで
ここに来た
でもだからって
死んで欲しい
……だなんて
……ただみんなを
巻き込んだ智を
悪夢みたいな
一連の事件を
先輩を
止めたくて
その結果が
なんで

……セックスした
相手を、
消す
呪い……
ゴソ…
ゴソ…
……？
なに…
…私!!

私はこんなッ
こんな終わり方望んでたわけじゃない!!
あなたは法に裁かれるべきだった!!
正しく罪を償ってッ……
っなのに……
こんな……自分勝手に
満足して逝くなんて許さない!!

はっ
はっ
ん
ん
なん…だい
結局結んでくれるのかい…
それ…とも…
……呪いを使ってまで
私を引き留めたいのかな……？
……先輩のため
なんかじゃない……!!
だって

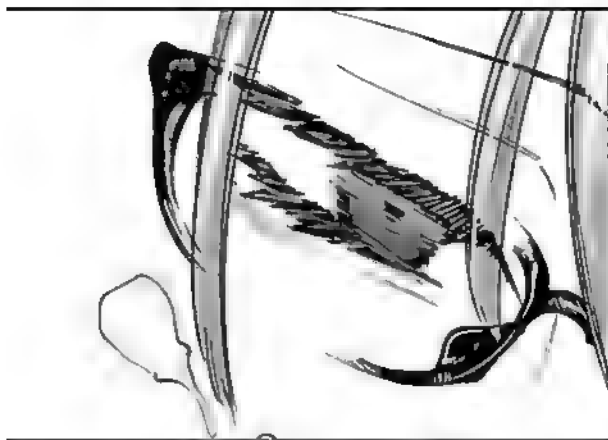
みんなをあんな目に遭わせておいて……っ

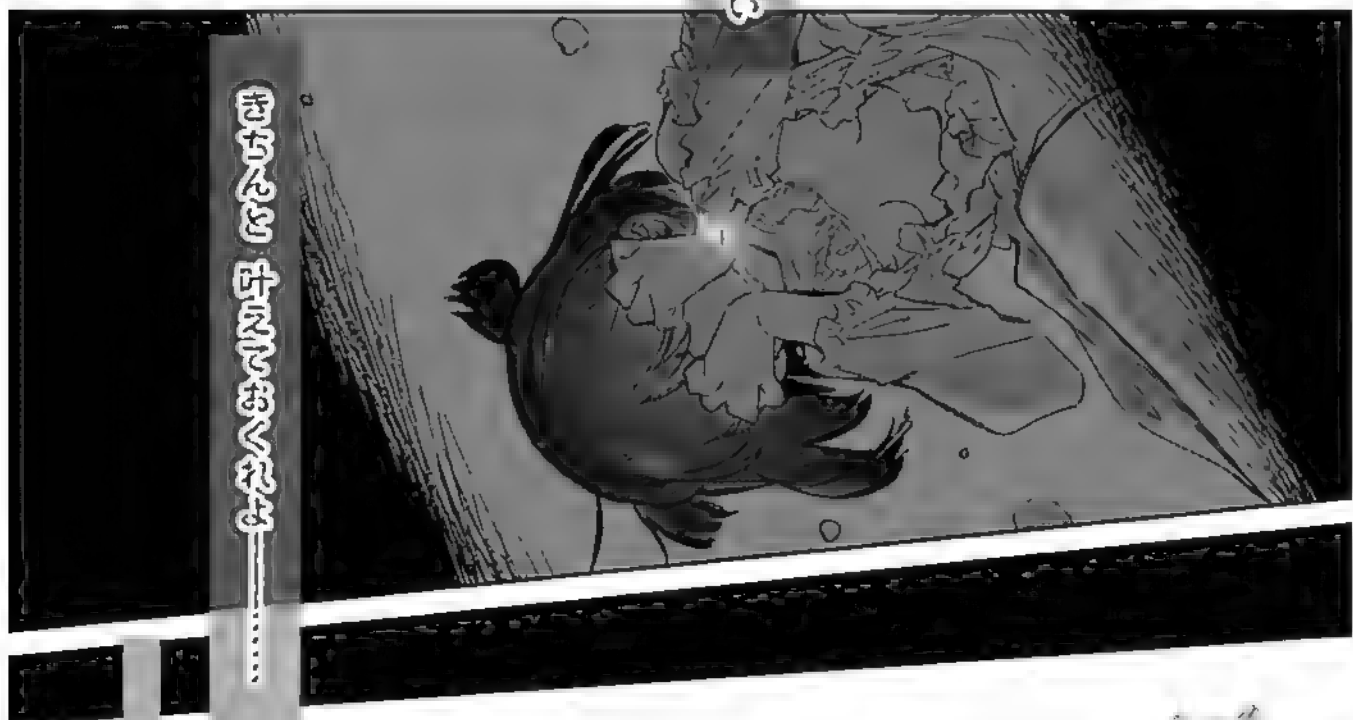
生きてさえいれば

いつか先輩も変われたかもしれない

自分だけ楽になれるなんて思わないでよ

ちゃんと償うまで……逃がさない!!

何かが違ったかもしれない

……どうして君が泣いているのか……私には本当に分からないんだよ
……ねえ こねずみちゃん…
私はねえ… 幼い頃 問題児だったんだ…
友達の大切な物を壊しては…よく……怒られた…
それは… いけないことなんだってさ……
だから…長いことかけて自分を……律してきた…つもりだ
結局…そんな薄っぺらい仮面も
例の事件がきっかけで
剥がれて…しまったけど…
ふっふふ…
どうして
どうして

私はただ
先輩と居られれば
よかったのに
先輩と智が
仲直りして
みんなが
居て
ただ 普通に
過ごせたら
それだけで
幸せだった のに
ごめん…ね
私なんかのために…
セックスの真似事なんか
…させちゃって……
でも……
…最高に
可愛い…よ…♡
こんな…ことなら
もっと…はやく
しねば
よかっ……
…… …

……ねえ神さま……
私のお願い
きちんと　叶えておくれよ――……
その娘に施した――
『怨結び』の呪いは…
不完全なのです

……呪い？
そこの男が死んだのは……
智の呪いだっていうのかい……？
亜雁には……人を『消す』呪いなのです
しかし吾の持つ赤縄は僅かな燃え滓だけ……
ふあ…
故に全ての縁は断ち切れず
身体だけが残ってしまった
……？よく分かんないけど…
……智はいったいどうなるの？
娘は怨を結んだが——
不完全ゆえに代償を支払うことなく
今なお『保留』のまま
怨結びに縛られているのです

しかし……吾が呪いを
人間に与え続けて
神力を獲得し……
赤縄を取り戻しさえすれば――
『怨結び』は正しく成就し
娘は『代償』を支払い
正気を取り戻すだろう
呪いの……代償……
代償か
人一人消すのに必要な……

……いたぞ!

君!! 大丈夫か!? 血だらけじゃないか!

大好きだった
はずなのに……
分からない
誰かを
『怨結び』で…
消し…
……ました
うと…
うと…
……め
……
い…

!

さと…る？

起きたの!? さっ……

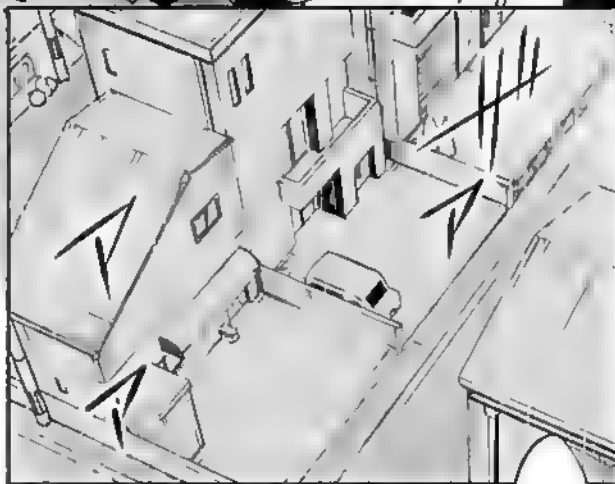
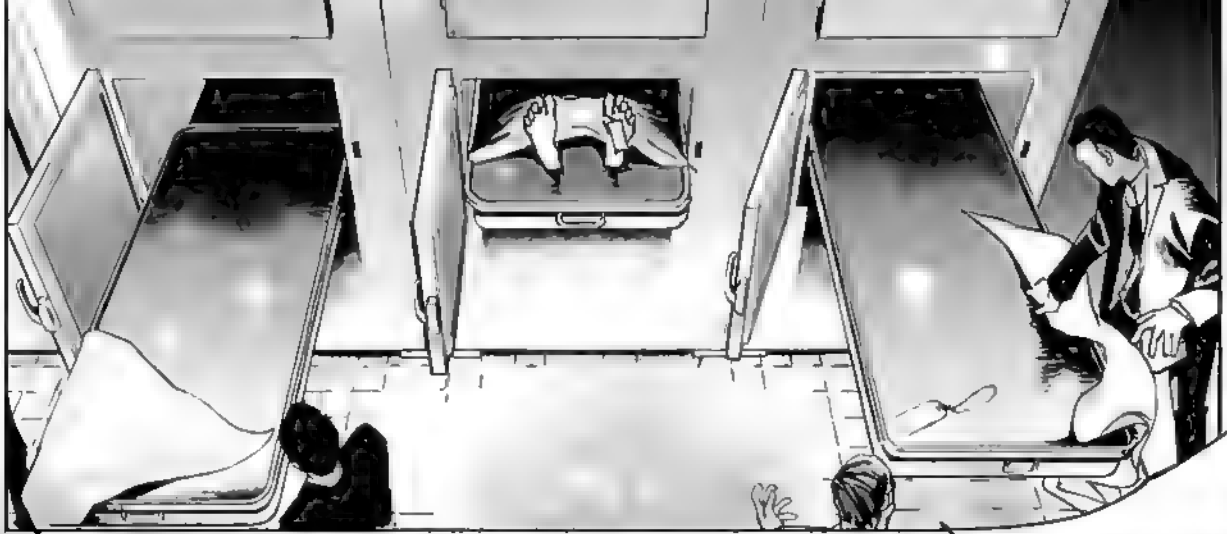
……え…

頭ボーッとする…

……あたし… さっきまで廃墟に …あれ？

なんで……

あんな場所

行ったん… だっけ……？

これも……
こいつの仕業
だってのか!?
化物め……!
こんなもの――
警察の手に負える
わけないだろ!!
――これは…
!?
…!
『例の願い』――
貴様に
なんの得が
あるのです？

貴様のおかげで吾は多くの呪い人と赤縄を手に入れた
貴様は弁が立ち知恵もある――
だからこそ
その『願い』だけは理解に苦しむのです
……理解出来なきゃダメなのかい…？
女の子たちを呪いへ誘導し
こねずみちゃんを監禁して――
もうひとつの怨結びの仲介役をおびき出した
結構頑張ったと思うけどなぁ私は

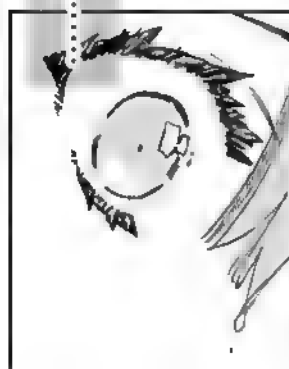
別に叶えることは吝かでないのです
ならいいじゃないか！
赤縄ってやつが手に入ったなら宙ぶらりんだった呪いはもう成就できるんだろう？
男たちは消え呪いに縛られた女の子たちも目を覚ます！
男を消した『代償』を娘たちが支払えば――だがの？
です☆
だから・・・

私がその代償を
『肩代わり』したいんだ
そのために彼女たちの手首から移して貰ったこの呪いを……
私が死ぬか消えるかする間際に発動してくれればいい
それが約束だったろう？

……怨結(えんむす)びの代償はたとえ消されようとなくなりはせぬのです
ましてや今回は八人分……いわば『重ねがけ』
全ての縁を断たれた先で
どんな苦痛が待っているとも知れぬのだぞ？
だからいいんじゃないかぁ……♡
私は・・・傷付いて・・・みたいのさ
彼女たちの受けた痛み……
そしてこれから一生背負い続ける『代償』ってやつを

――そしたら 私なんかでも
分かるかもしれないだろう？

ブブッ
彼女たちの〝痛み〟とか……

〝悲しみ〟って
やつがさ……

代償は『八人分』
きっちりと頂いた
せいぜい気の済むまで
永久の地獄を味わうが
よいぞ――
……です☆

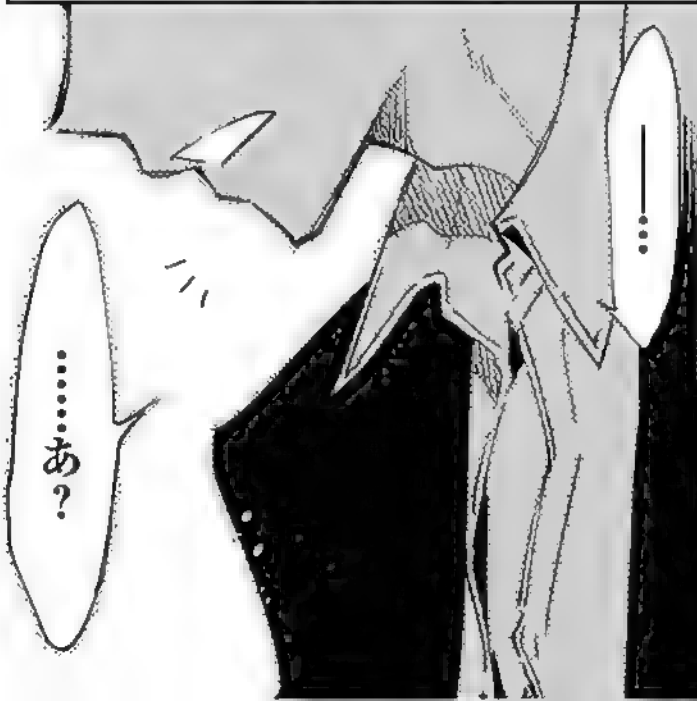
これから忙しくなるのです

多くの怨を結び新たな神として語り継がれる……

そしてゆくゆくは『あの頃』のように——…

……いやーまっずいですよねえ——!!
腐らないのをいいことに解剖先伸ばしになんてするから
仏さんを八つも失っちゃってー
てかコレもう1課の範疇超えてません??
大丈夫ですかーっ
さっ
先延ばしにしたのは我々ではない!!
貴様何が言いたいッ
いや……だからさあ
二瓶さんが刺された事件は被疑者死亡で解決
残ったオカルトはオカルト担当に任せましょうよ

浪速甘栗
――…
……あ？

──どこだ？
……此処（ここ）
誰も……いねえ
俺……
いつから……
──あれ
久々に目の合いそうな人が来たと思えば──
またあんた？

クソみてーな世界にようこそ

あたしは『死神』

うぜえ奴ら全員消したらここに行き着いてそれっきりだ

これからよろしくな『クビツリ』さん

※授業の遅れも取り戻し中
あの
実は前 おばさんが智を転校させるって話してたんだけど…
?
あー あれかあ! しないしないしない!
やだ〜
メイのノート
だあって転校する理由ないもん
集団昏睡事件とかいきなり言われてもさ?
…原因も分かんない話で転校させられてたまるかって!
色々記憶ないのはブキミだけどさー
そう……なんだ
ほっ…
えっ
何 もしかしてメイも不安で転校……
し しないし!
よかった〜〜〜!もし怖いならまた毎日一緒に帰ろーよ
二人ならちょっと安心じゃん!? それに——
ふ

なんかあったら
あたしが守って
あげるから！
ピト
ねっ
どや
ってそれより
聞ーてよぉぉ！
ママがさー！
私のスマホ
壊しちゃった
ってゆーのー
ありえ
なくない!?
だから
メイのも登録
し直させて……
……
ぎゅう
……メイ？
息
できないよ？
もが

あたしは
「死神」
うぜー奴ら
全員消したら
ここに行き着いて
それっきりだ――……
NEXT
……
…おい
第五十六節❖行き着く場所

なんか反応しろよ!!
オラァン
あたしが厨二病でスベり倒したみてーになってんじゃねーか!!
悪い……ガチなのか比喩なのか考えてた
ネタなのか
てか俺……以前お前とどっかで会ったのか……?
はあぁ?
ジョーダンで言ったのにマジで覚えてねーの!?
うーわっヒクわぁ〜……怨結び渡した相手も忘れてっとかさぁ
さぞかし商売ハンジョーしてんだろーなぁ
あぁ?
商売?
俺はお前にいったい何を売って——…
なに……
……ん?
んん?

俺は……
誰でしたっけ…？

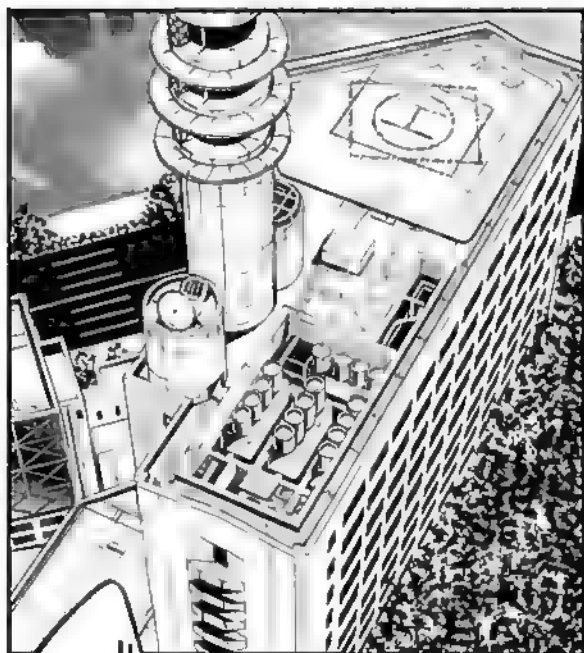
あ〜……
……マジ？

いや……見ての通りここマトモな場所じゃねーからさぁ…うん
今更何が起きても驚かねーけど
よりによってそうきたか〜……
すぁぁ〜

……ま アンタがどんな状態だろうとカンケーねーや
え…
あたしは超が付くほど退屈してたんだ
トクベツにおもしれーもん見せてやるよ

…そーすりゃ

イヤでも思い出すかもな

…………
もさっ
佐々くん……
…………
まずは
誤解の無いよう
弁解させてください
何も伝えず
勝手な真似して
すみませんでした
ペコリ
……ですがこれは
8課を守るための
苦肉の策だった
1課の
元同僚から
二瓶さんの件で怨結び捜査係が
疑われていると密かに教えて貰った時
とっさに思いついたんです
しかし……
良かったのか？
身内を売るような
真似をして

僕は当然のことをしたまでですよ
安登警部は明らかに捜査を私物化して――
娘のまつりちゃんを治す術を探るために
あえて『クビツリ』を泳がせ事件の解決を遅らせてきた
僕らは真っ先に『クビツリ』を止めるべきだった
……どんな手を使っても
その結果がこれだ
…なんてねー
ちょっとはマシな顔つきになったじゃないか
うまくすればまた1課に戻ってこられるかもな

……今となっては
どうでもいいんだよ
そんなのは
──まあいくら1課が
僕らを調べても
クビツリとの連絡手段以外
二瓶さんの事件に
繋がるような証拠は
当然何も出ないわけで
結果的にお二人は
こうして無事解放され
8課の疑いは
晴れました
………
そう…だけど
知っていたなら
せめて相談して
くれても……
もしあの時
先輩が自由に
動けていたら
あの縄男が
危機に瀕した際
『以前』のように
アイツを助けに
動いたかもしれない

私は記憶がないから
話に聞いただけだけど……

貴様の上司に
伝えよ!!
……あの
『病院での一件』ね
我が名は
蛇
クビツリが
長らく世話に
なった
必要とあらば
いつでも協力するとな!!

そうなれば
8課はいよいよ
終わりだったでしょう
だから早い段階で
櫻先輩の動きを
抑えられたのは
本当に
運が良かった

そ
それはそうと
クビツリさんは
本当に——

ええ!

ご覧の通り――
バッチリ死んでますよ
幸いこの遺体だけは消えた他の八体とは違って無事です
無事といっても腹の中身はありませんが(笑)
クビツリ……さん
そんな……
どう…して
面確や身体的特徴歯科所見から一応九来木辰巳と断定されたけど
まー色々とありえないいんですよ

こいつは今から17年前
行方不明になった男です

それがいつしか
都市伝説の「怨結び」
となって現れた

叶えてやれない
こともないっつー

その外見は
失踪当時のまま
現在に至るまで変わらず

また今度来る

何も無い空間から
出現するなど
常軌を逸した存在だった

それが先日
山中で遺体となって
発見された

遺体の内臓は
大部分が
失われており

オマケに腐らない
一切の死斑も出ない……

１課がこうも容易く
引き下がるのはおかしい
……とは思ったが
君の話で
合点がいった
我々……いや
私は尻拭いのために
解放されたんだな
そこの彼の後始末と――
失った八つの遺体の
責任をとるために
!?
そうですね
もともとご遺体の
解剖と遺族への
引き渡しを止めたのは
安登警部だ
そうですすので……
当然僕は警部の意図も
分かってますよ？
怨結びならば
生還する可能性も
ゼロではなかった
ですが――

そうは
ならなかった

これは——
仕方の無いこと
だったんです

そんな!

安登警部は遺体の
消えた時もずっと
取り調べを受けてたん
でしょう!?

それなのに
遺体喪失の責任を
取れだなんて……!!

……まだ怨結(えんむす)びは終わってないんですよ
櫻先輩
佐々……
くん……
名無(ナナ)ちゃん!?
どうしてここに
どういうことだよ……

アイツが死んでるって!!

……アンタいったい何やってたんだよ!!

アレに関しては
死因や犯罪性より特筆すべきは
その『異常性』でしょうから
残された脳や組織を解体して
調べ尽くせば思わぬ分野で
思わぬ収穫があるかもしれませんね
ふざけんな!!
バラしたりして
取り返しが
つかなくなったら
どうすんだよ!!
いつ目を覚ますかも
分からないのに!!
ギッ
……アンタは
それでいいのかよ

あいつはな！
ママみたいな呪い人を〝救うため〟に怨結びを終わらせようとしてたんだ!!
それは僕らの会話を盗聴してたアンタにも分かってただろ!?
彼の端末は一通り監視してるからね
知ってると思うが彼と会う際の会話は全て記録させてもらうよ
そのチャンスをみすみす逃していいのかよ!!
ぴく
まつり

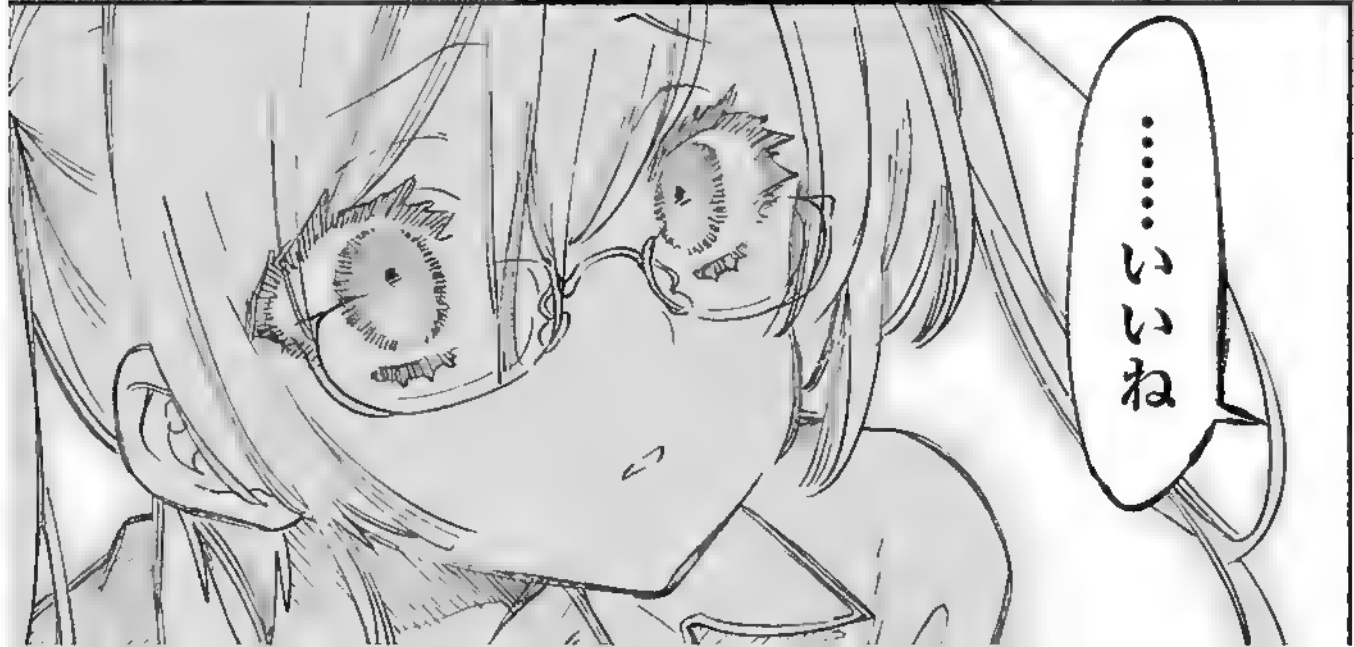
現実を見るんだ
まつり
『子供ができるような事実などなかった』
……いいね

……千石──

もし此処ではないどこか……

別の世界へ行けるのだとしたら

私も

一緒に──……

……僕を泳がせて捜査に利用すんのもいい
まつりとして扱うのもいい
……けどな

ママが自分の魂を代償にしてまで救おうとしたパパと――
『その決意』まで無かったことにすんな
…現実見えてないのはどっちだよ
本気で娘を救いたかったら――
『僕』を見ろ!!
見たくなくても現実と向き合え
バカ!!!

ちょっ
名無ちゃ――

……

まつりさんのことですが――……

千石くんが義父を殺害する少し前から――

時々彼の家に通ってたみたいなんです

千石くんは無断欠席や夜間のバイトと問題が多く……そして

日常的にケガの絶えない生徒でした

まつりさんは面倒見の良い子でしたから

彼のことが心配で放っておけなかったんでしょうね……

ママが自分の魂を代償にしてまで救おうとしたパパと――

『その決意』まで無かったことにすんな!!

…………
まつ…り……
——ここは
元の世界と
瓜二つだけど
昼もなければ
夜もない
『世界の裏側』
みたいな場所
なんだ

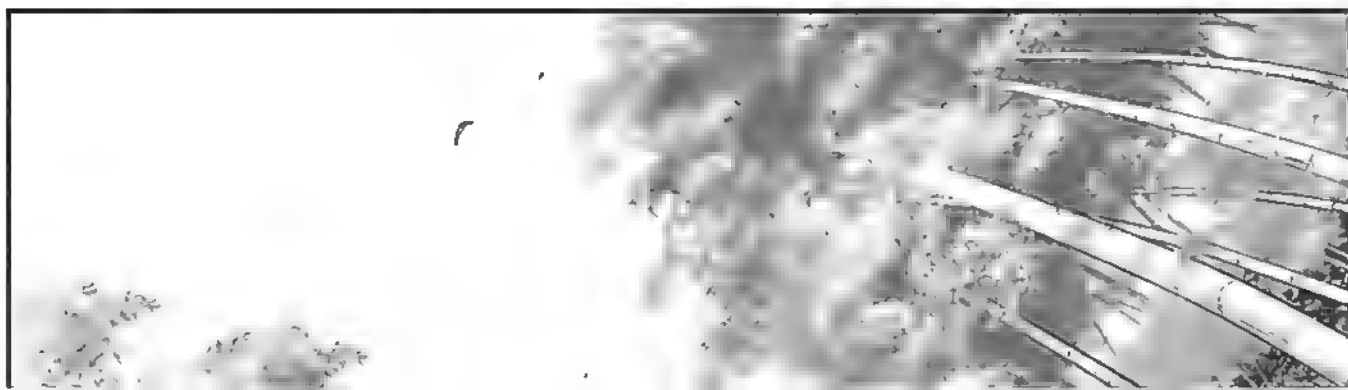
お腹も空かなきゃ眠くもならない
時間そのものが存在しねーのかも
そんな何も無い……何とも関われない世界だ
その代わり
ちょっと探せば怨結びの呪いで『消された』奴らと
そこかしこで会えるぜ
他にもここで暮らしてる奴がいんのか……
じゃ　お前もそのエンムスビとやらで消された側……なのか？
いやーあたしの場合はちょっと特殊でさ
怨結びを何度も使った結果あいつらと似たような状態？
になっちゃったんだよねー
……でもまーあたしは・・・マシな方だよ

誰とも関われはしないけど――……
そんな奴らの日常の『痕跡』を……
表の世界では今もあたしの大切な人が変わらず過ごしてる
見守ることができる
あたしは……それだけで充分
お前……
うお!?
あくあ
受け身も取れねーの?体力ジジイかよ
ちっげぇよ!
なんか……ぐねってしたモンに足が取られて

うぞ
うぞ
うぞ
うわああッ
ククッ……
そんな怖がって
やんなよ
……言ったろ？
消された奴らと
そこかしこで
会える……ってさぁ
……なあ
あんただってその
『化物みてえな奴らと
大差ない』んだぜ

なに……言って
……人じゃなくなった
今だから分かるよ
あの日あたしの前に
現れたあんたは
イラつくほどお人好しで

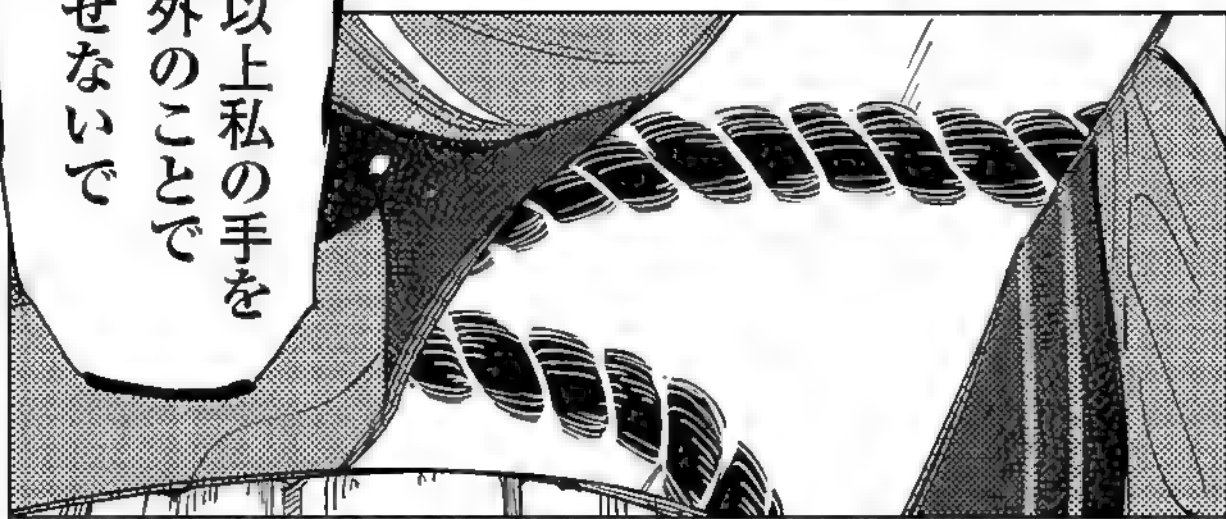
『いい加減にしとけよ
代償でこの先』
『お前の人生が――……』
わざとらしいくらい
人間臭くて――……

……おぞましい
化物だったんだ

──あれから
……幾日
経った
のだ……？

怪しいと思って来てみれば——

説明しなさい

早くして？
これ以上私の手を
彼以外のことで
煩わせないで

その…
…腕
く……び
つっ……
クビツリっ……!!
ぱんっ
第五十七節❖穢れた忘却

早くして…って言ったでしょ
説明しないと殺しますよ？
……わ
妾に……分かるのは
あやつの姿を模した男に刺された瞬間と……
その後の壮絶な痛み……だけ
文字通り魂が『引き裂かれる』よう…な……
……あやつを
縄を全て失った今…
妾には……何も……
……そう
よく分かったわ

彼を救うため
あなたに出来ることは
何も無い――
待て……
『役立たず』
だってことが
待ってくれ!!
聞いて……
どうか……
行く前に
聞いておくれ……
……なんですか
急いでるん
ですけど?
す……全て…
思い出した…のだ……

妾はあの童に……
妾を神社から連れだすと約束してくれたあの男に
……？
知らなかった…のだ……
許されないことをした…!!
封印が解かれた当時の妾は——
人の心などとうに失われておったのだから——…
ギャアー
ギャアー
ギャー
ギャー
ギャッ
ギャギャ

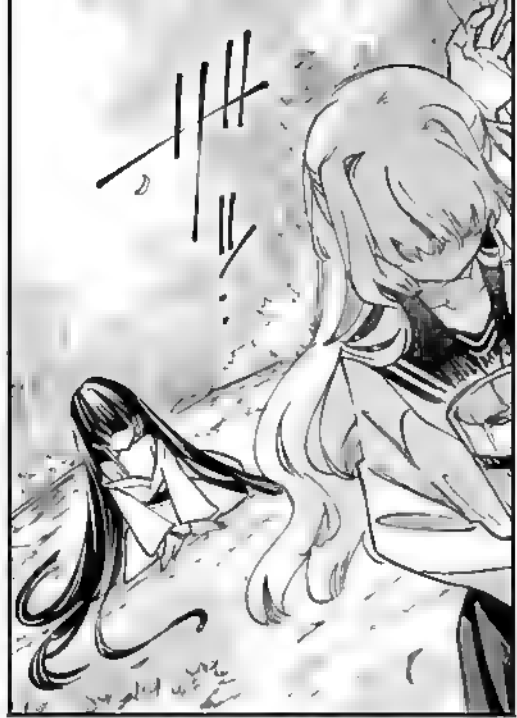
第五十七節❖穢れた忘却
あれから……
何十…何百年
経った……？

……そうか
妾は…封印されたのだな
生き残った村人と『宮内』の手によって……
かつて村を丸ごと二つ滅ぼした『怨結び』
村人たちの怨嗟はゆっくりと妾の魂を蝕んだ
人間だった頃への未練と今際の際の村人による残虐非道な仕打ちも相まって
小賢しい真似を……
このままでは村人全員餓死するぞ!!
いつしか妾は本物の『祟り神』と成ったのだ
あと少しで村の者共全て根絶やしに出来たというに……

この目障りな
死体は……
ゴッ
なるほど
ご神体の
朽ち縄を使って
命を絶ったのか
はて…憎き宮内の
子孫というわけでも
なさそうだが
いったいどこで
手に入れたのやら……
ニヤァ
これが供物となって
妾は目覚めたのか
なんたる偶然！
なんたる奇跡!!
あの土地にはまだ
奴らの子孫が残って
いるかも知れぬ…
ギチ…
ギチッ
ギチ…
さてどうして
くれようか……
──…
……ほう？

朽ち縄が
死体に『同化』しておる……
意思を持たぬ呪いの『道具』風情が身体を欲するか……
面白い!!
ならば妾が一つ
貴様の侵入る手助けをしてやろう…

……そう
それが──
クビツリさんの
…『始まり』なのね
…………
……
で
あなたは彼を
『どうする』
つもりなの
妾…は
あやつを──…

――……そう
私に話したいことは……それで全部？

妾を……
許すのか…？
……今のあなたは
相手にするだけ
無駄な
単なる役立たず
だもの
彼の身体を
取り戻して——
『ここに
連れてくるまで』は
……ね
縄はまだ
奪われてない
彼はまだ
『繋がってる』
……だって
私がここに
来れたんだもの
あ…！

あなたに責任があると
言うのなら――
そこから先は
命を懸けて彼を救って
そうでなければ……
許さない
絶対に……
許さない…！
……乙梨……
叶……

ガッ
ヴーーッ ヴーーッ
ごし
……名無ちゃん？
丁度良かった
クビツリさんのことで話したいことが──
………
そう……
あなたが居てくれて本当に良かった
私も行きます
……いいの。

彼のためなら一人二人殺すぐらい厭わないもの
……深夜になっちゃったけど
クビツリさん…本当に運び出されるかしら?
知らないよ……でも昨日
あの『佐々』っていけすかねー刑事が確かに言ったんだ

クビツリを『今日』大学病院に移送するってさ
これを逃したらアイツ明日には解体されちまう
そもそも死体じゃない真っ当な
どんな扱いされるか分かったもんじゃな……
させませんよ……絶対に
ガチャ

あっこれ
ヘタしたら
死ぬかな
……相手
やっべ
……でもやっぱり
名無ちゃんは帰った方が
いいんじゃないですか？
お父様……
刑事さん
なんでしょう？
これからやることは
間違いなく
『犯罪』なので
お父様もただでは
済まないと
思いますけど
……知らないよ
あんなヤツ
『僕』にとっちゃ
父親でも
なんでもないし

……そう
安心した
ホントはもうちょっと
近くで待ち構えたい
ところだけど……
武装した
不審者二人
こんなの見つかったら
いくらガキでも
容赦なく捕まる…
…おっ？
いかにも死体とか
積んでそうな怪しい
ワンボックス!!
よーし！
まず僕が車を
止めるから叶は
わく
わく

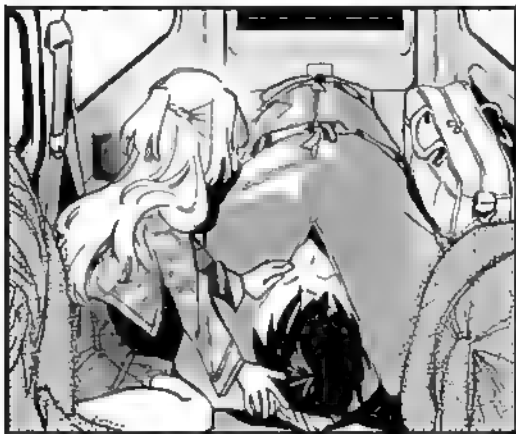
って
おおい!!
なっ なんですか君たち!
危ないじゃな──

相手も
二人組か!!

あいつ――
あの叶をいとも
容易く……!?

っていうか
ヤバイヤバイ!!
死体運ぶだけの
奴があんな強いとか
聞ーてないし！
こーなったら
僕が一か八かで
活路を開く!!
やっぱ
無理ィ!!
……なんだ？
お前たちか
こんなところで
何してる
……へ？
丁度
良かった
遺体を
盗み出せたは
いいものの……
彼を送り届ける
アテがなくてね

ここまでやるからには
君たちにはあるのかな？彼の雇い主……
〝神様〟の元へ届ける手段が
大丈夫!?
どうして……アンタが
覚悟はとうに出来ていたよ
ただ君たちがそこまで信じる彼に
賭けてみようと思った
……それだけだよ

……随分とバレるのが早いな
さては佐々くんかな？
警部
……私が残って時間を稼ぐので
みんなをよろしくお願いします
……
分かった
大丈夫かよ櫻のやつ……
彼女ならうまくやれるさ
それはそうと——
ドドン
……
……？

その話しぶりだと君は……

男の子なのかな

そっ……

しかし
どちらにせよ
祖父を殴り飛ばす
孫というのは
やんちゃが過ぎるな
………
うっせー……

〝――ならば妾が――っ〟
〝貴様の侵入る手助けをしてやろう〟

ぽたっ…
実に新鮮な五臓六腑だ…♡
ぽたっ…
こいつを妾の腹に収めれば…
ほれ この通り……

こいつがあれば
妾も再び食の快楽を得られるのぉ！
貴様は空いた腹の中にでも収まればよい
――さて……
人間と同化した貴様は何を得る？
実に興味深い…
のう？　朽ち縄
いや……

せっかく人に成ったのだ
新たな呼び名をくれてやろう
――あの日
男の臓腑を奪った妾は
知らずに奴の『人間らしさ』も
同時に受け継いでしまったのだ
その瞬間から妾は
祟り神でなくなった
……だから今まで
都合良く全てを忘れて――……
貴様の名は――…

で
あなたは彼を
どうする
つもりなの
……もし
あやつが再び
妾の元に戻ったなら
……全てを還そう
偽りを正し
在るべきものを
在るべき場所に……

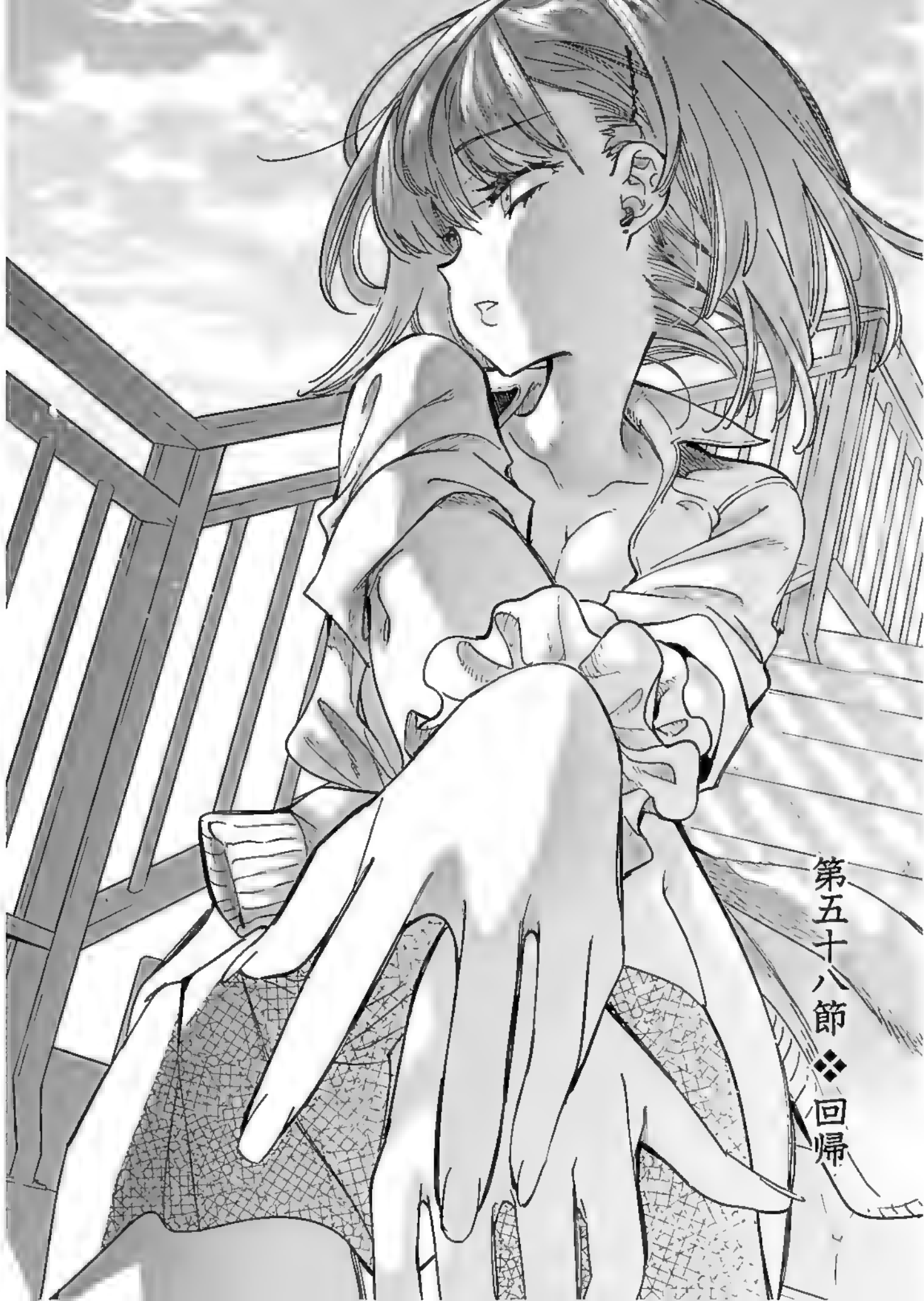
クビツリさんに服を着せてる
君は少々危ない戦い方をするね
危ない……ですか？
火事場の馬鹿力とでもいうのかな
あれはそうそう出せる力じゃないよ
身体の損壊を顧みないやり方だ
クビツリの足
確かに
本気になって関節が外れたり筋を傷めたり…したことはあります
でも
さっきは全力を出したはずなのに…傷めませんでした
叶
あの一瞬で櫻さんを庇いながら私への反動まで考慮した上で受け流されちゃったんですね……
ふふっ
完敗です
父
君はもっと自分を大事にした方がいい
さっきから何言ってんだ？こいつら…
脳筋どもの会話コッわ…

あの日 あたしの前に
現れたあんたは
いらつくほどお人好しで
わざとらしいくらい
人間臭くて
おぞましい化物――
……だ・っ・た・んだ
だった……？

……わりーわりー案内の途中だったな

ニッ

次行こーぜ

第五十八節❖回帰

こんな公園の中にも――
……あのドロドロが？
ってかあれ……ほんとに人間なのかよ
さあ？
人間かどうかなんて知らねーよ
知らねーのかよ
ただあたしが呪いを使った場所全部に居たから
あたしと…
セックスしない？
このまま…
イーとこ、つれてってよ…♥
消された奴らなんじゃないかと思っただけだし
てか
アンタが自分で配り歩いた呪いじゃん？

……悪い
やっぱり
何も
思い出せ
ねえ……
思い出せねえ――
…けど……
なんだって俺は
そんなモノ
配ったり
したんだ……？

誰も…っ
救われてないじゃねえか…！

……それこそあたしが知るかよ

んなことよりほら
次はあそこだ

にっ……
んげんじゃねーか!
なんで裸!?
理由はわっかんないんだけどさ〜
あたしと違って
この子は何やっても
目を覚まさねーんだ
隣のが恐らく
消された側だと
思うんだけど
あんたはさ
これ見て
どう思う?

チラッ
…………
そいつが……
憎くて
消されたようには
……見えねぇ
……だよなぁ
あたしは
〝全員死ね！〟って
思いながら消したたし
こいつら見るまで
そんなこと考えも
しなかったんだけど
こんな呪いも
あるんだ……って
……気付かされた

みんな
いろんな境遇の中
いろんな事情があって
人を……消してる
……それってたぶん必ずしも
憎しみだけじゃなくて
——例えば誰かを
助けるため……とかさ

あるいはひどく自分勝手な理由だったり
あるいは――先走りすぎて

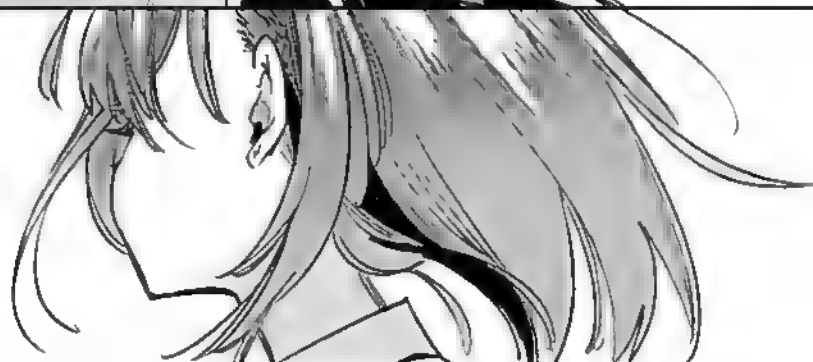
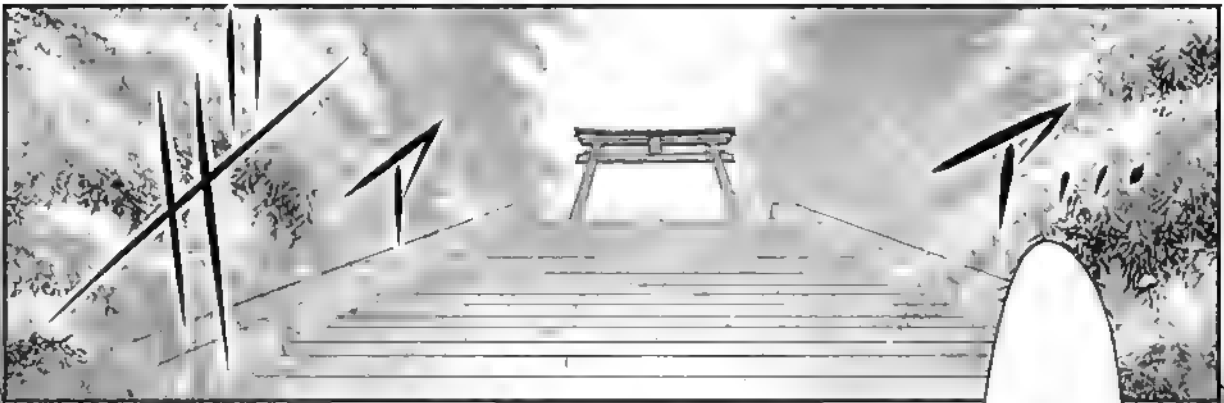
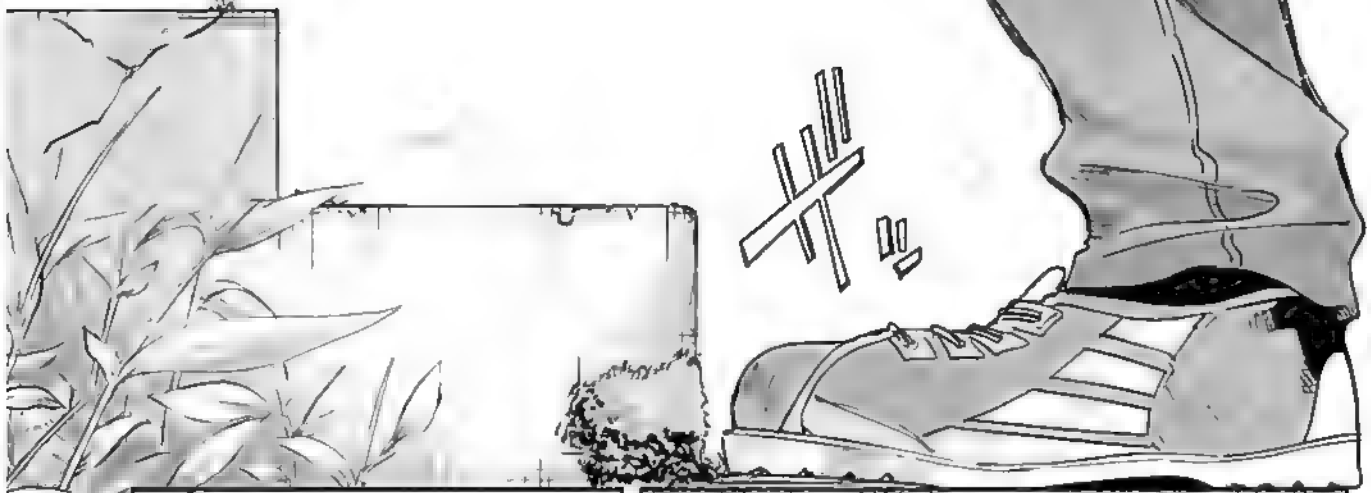
呪ったこと自体
後悔してるような奴らもいるかもな
……あんたが『なんでそんなモノ』つったように
実際ロクでもない呪いだけどさ
あの時のあたしには怨結びが『必要』だった……

……助けられたんだ
だから……今の状況を呪いの『せい』だなんて思っちゃいねーよ
自分の選んだ結果だ
ぎゅ…
その……ツケだ

『──最後にやると決めたのも』
『やった責任を負うのも私──』
『安易に肩代わりなんてして欲しくない!!』

以前……似たようなことを誰かに……

あれは——誰の言葉だった……？

元の世界に
帰りたいとは
思わないのか

ザッ
ザッ
ザッ
はぁ
はぁ…
ザァ
ア
ア
遠路はるばる――
よう
来てくれた

そなたが……

安登まつりの
父君だの

妾は蛇
求める者に怨の呪いを授ける神
クビツリを助けて貰った礼を言う
これまでも幾度か世話になったの

娘御の件……妾の呪いがきっかけで
そなたら一族に度重なる災いを引き起こしたこと
うちの家族を殺さないでほし
全て承知の上だ
せる
詫びる言葉も無い……

クビツリ…！
彼の話が妄言でなければ
それが我々にとって現状唯一の希望になるかもしれない
なんでも縁を結び直して怨結びを無かったことにするだとか……
──ああ
今からそれを試そうと思っている

分か断れた
この二つを
『結び直し』
奴を
呼び戻す

いわば
縁結びの
応用だ

なーんだ
意外と単純
そうじゃん
ははっ

成功率は
五分といった
ところだ
応用だからな

まじかよ
半分の確率で
失敗するじゃん

……思えば

妾は神となった時から
人を『呪う』ために
崇められてきた――

呪うため怨を結び

数多の縁を切り続けてきた

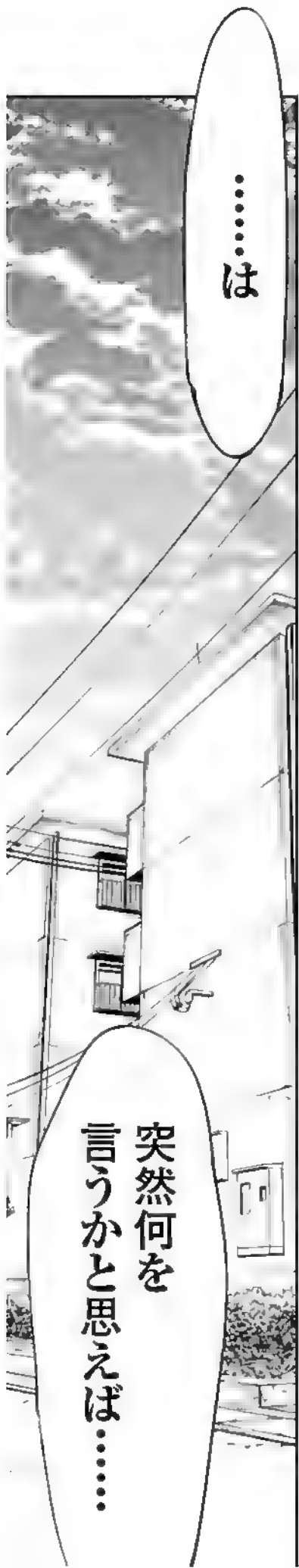
そんな妾にとって

これが——最初で『最後』の縁結びとなろう……

……は
突然何を言うかと思えば……

……元の世界に帰りたいかって？
あたしが無理してるって……!?

叶いもしねー望みを持つことがどんだけ虚しいか……
てめーに分かんのかよ!!!

そんな……望み
……今更…っ……

呪いを使い過ぎた あたしは最後 誰の目にも 映らなくなって……

気付けば こんな世界にまで 飛ばされて

……あたしを
このクソみてーな世界から
連れ出してくれるんじゃないかって……
期待
してたんだ……

あんたはあたしの
名前どころか……
怨結(えんむす)びの記憶すら…
なかったんだから
あーあ…
アホらし
……悪い……
いーよ
これでやっと…
諦めがついた
きっと
この世界で人知れず
消えることが……
あたしに
課せられた――
『代償』なんだ……

頼む…結べ──
朽ち縄…いや
クビッリ!!

!?

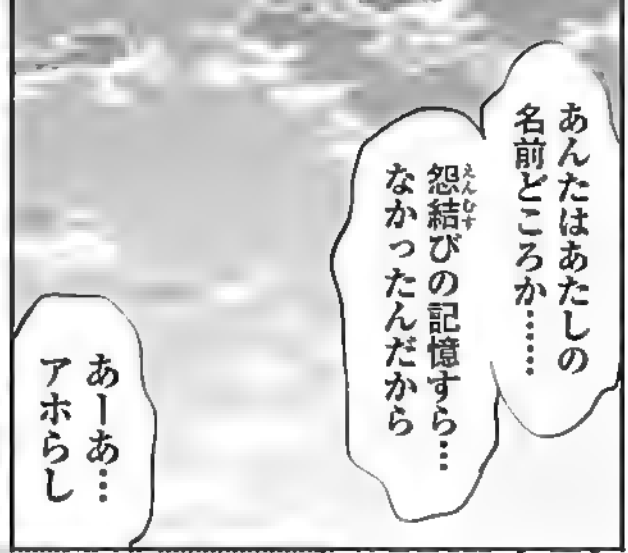
……やっぱり
あんたはあたしと
違って……

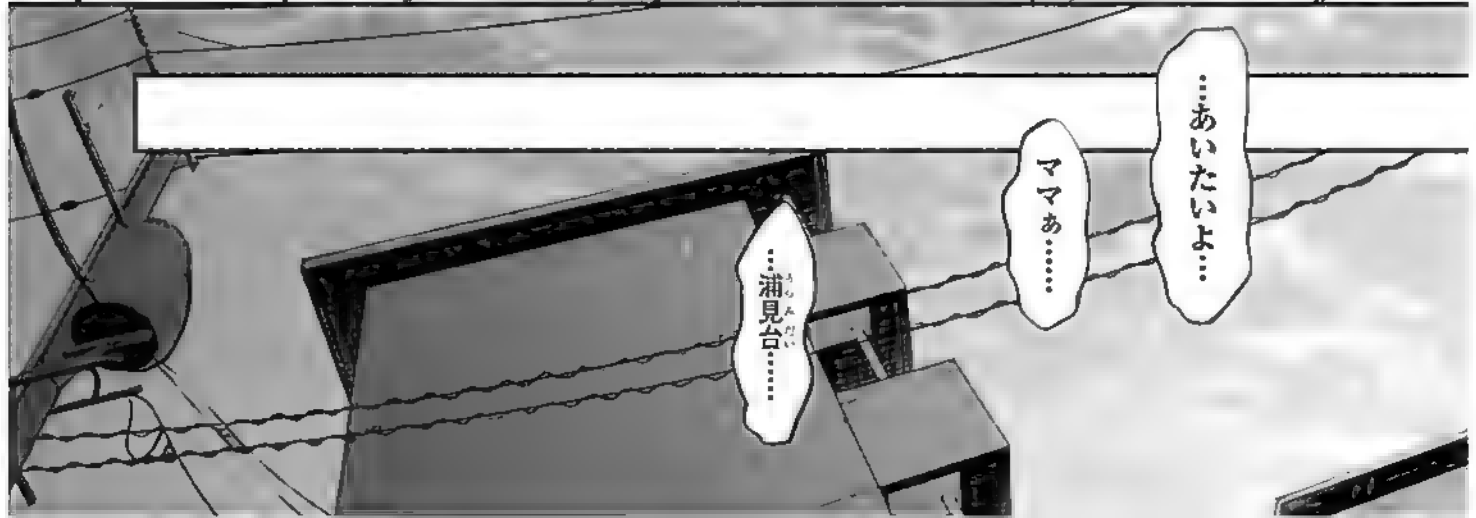
元の世界に
帰れるんだね

……じゃーな

久々に人と話せて
楽しかった

あんたはもう
戻ってくんなよ

江西知霧(えにしちぎり)!!!
諦めんじゃねえ!!
必ずまた会いに来る――
そん時まで
生きてっ――

……は
最後の最後で
ほんっと……
ズル…
クソ偽善者かよ
期待持たせるようなこと
言いやがって……っ
……そんなこと
言われたら……
また…
死ぬに死ねない
じゃんか
バカやろぉ
……っ
…あいたいよ…
ママぁ……
…浦見台……

……あ……
ここ……
……神社……？
ザザ..
ザザ..
なん……で
ズッ
俺の
左腕……
……？
クビッリ

にょ
ようやくお目覚めか？
……全くこの眠り姫は毎度毎度手のかかる
にょ
お前……蛇……か？
その格好……──いや
蛇……？違う……くちなわ……
は
ビクッ
悪いが妾はこれから儀式の準備で忙しい
その上客も居るのでな
え なんで刑事のアンタが神社に──
なに──くつろいでんだ
おっす おっす おっす
名無まで…
おい……
そういうわけでな
ぎゅっ

きょ……
そなたはクビだ
そなたには一切
神社への立ち入りを禁ずる
『神さまの怨結び』第⑩巻／完

to be continued……

おひさしぶりです、守月です。
今回もこうして神さまの怨結びを無事お届けすることができました。

いやー…10巻ですよ、10巻。
5年かけてようやく10巻・・・早いのか遅いのか。
期間はさておき、こんなに長いこと
ひとつの作品を続けられるのは本当に幸せなことですね。
これもひとえに応援してくださる皆様のおかげです。

そうそう、10巻では珍しく（というか初めて）
描き下ろし漫画が幕間に入ってます。
ページの都合上本編で描けなかった部分なのですが、
「これは絶対描き下ろそう！」と心に決め、
単行本化を心待ちにしていたので今回無事に描けて満足です。

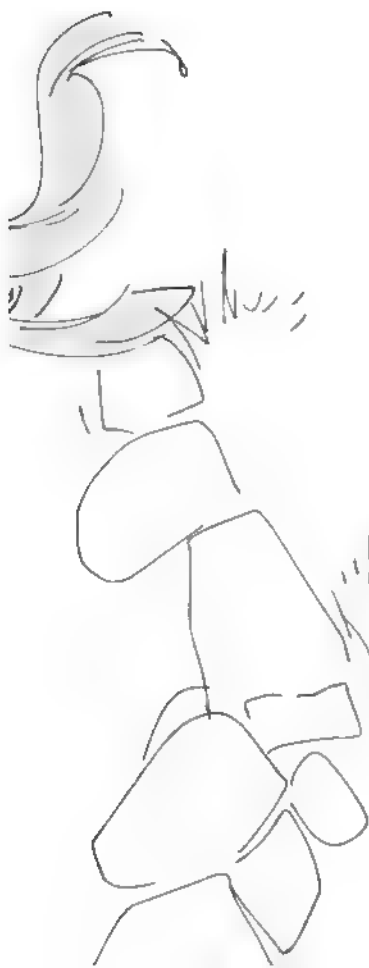
さて話を戻しまして・・・
ようやくクビツリを取り戻した蛇ですが、
ほとんどの赤縄を奪って力を付けた紅に
果たしてどのように対抗し、怨結びを終わらせるのか。
彼女達の物語もいよいよ大詰めを迎えます。

といったところで、次巻もどうぞ宜しくお願いいたします！

かみづきしき 20.9.18

Official blog

http://kamishiki.net/
Twitter Kamizuki_S1

ツイッターではたまに
いちゃらぶマンガとか
アップしてます。

-Special thanks-
KaeruShinshi
Pi-po
tarow
Runa
M_Hamano

暴走する佐々と紅、
狂気の連鎖を
断ち切るため

蛇は禁断の儀式に

踏み切る——

瞬きすら惜しい最高潮!!

神さまの怨結び11

かみさまのえんむすび

渇望して待て!!

神さまの怨結び

かみさまのえんむすび

電子特装版

神さまの怨結び10

かみさまのえんむすび

守月史貴

限定特別画集

Champion RED Comics

KAMISAMA NO ENMUSUBI
Presented by KAMIZUKI SIKI

KAMISAMA NO ENMUSUBI

Presented by KAMIZUKI SIKI

KAMISAMA NO ENMUSUBI

Presented by KAMIZUKI SIKI

O ENMUSUBI
AMIZUKI SIKI

KAMISAMA NO ENMUSUBI

Presented by KAMIZUKI SIKI

KAMISAMA NO ENMUSUBI

Presented by KAMIZUKI SIKI

KAMISAMA NO ENMUSUBI

Presented by KAMIZUKI SIKI

B

B

KAMISAMA NO ENMUSUBI

Presented by KAMIZUKI SIKI

KAMISAMA NO ENMUSUBI

Presented by KAMIZUKI SIKI

神(かみ)さまの怨結(えんむす)び 10

2020年12月1日　初版発行

著　者　守月史貴(かみづきしき)

発行者　石井健太朗

発行所　株式会社 秋田書店
〒102-8101　東京都千代田区飯田橋2-10-8
☎編集(03) 3265-1326　販売(03) 3264-7248
製作(03) 3265-7373
振替口座　00130-0-99353

印刷所　大日本印刷株式会社
Printed in Japan

ISBN978-4-253-23592-1

デジタル版　2020年発行
製作所　デジタルカタパルト株式会社
http://www.digital-catapult.com